

平成15年度
神戸市埋蔵文化財年報



2006
神戸市教育委員会

平成15年度
神戸市埋蔵文化財年報

2006

神戸市教育委員会



fig. 1 白水瓢稼古墳



fig. 2
兵庫津遺跡
第32次調査



fig. 3
同 出土遺物



fig. 4 舞子砲台跡



fig. 5 戊町遺跡
周溝墓出土遺物



fig. 6 郡家遺跡第73次調査 出土遺物

序

神戸市では、年間を通して数多くの発掘調査が実施されており、そこからさまざまな調査成果が得られています。

このような発掘調査成果のうち、とくに貴重なものとして平成17年3月に、西求女塚古墳が国の史跡に指定され、さらに同年6月には青銅鏡をはじめとする出土遺物が、国の重要文化財に指定されました。

今後とも、かけがえのない文化財をより良い状態で保護し、みなさんに活用していただけますよう努力していきたいと考えています。

さて、今回報告いたします平成15年度は、白水瓢塚古墳の埋葬施設から石製腕飾類やガラス玉の出土、御影郷においては、現在では神戸の地場産業へと発展を遂げる江戸時代の酒造関連施設の調査、また幕末の動乱期に築かれた舞子砲台の石垣の確認など、幅広い時期にわたり多くの貴重な成果がみられました。

これらの遺跡をはじめ本書に掲載されました調査の成果をとおして埋蔵文化財へのご理解を深めていただければ幸いです。

最後に、調査および本年報を作成するにあたりましてご協力いただきました関係諸機関ならびに関係者各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成18年3月

神戸市教育委員会

例　　言

1. 本書は、神戸市教育委員会が平成15年度に実施した埋蔵文化財調査事業の概要である。事業に関わる発掘調査は、神戸市文化財保護審議会の指導を得て、下記の調査組織によって実施した。

調査関係者組織表

神戸市文化財保護審議会（史跡・考古資料担当）
榎上重光 前 神戸女子短期大学教授
工楽普通 大阪府立狭山池博物館館長
和田晴吾 立命館大学文学部教授

教育委員会事務局

教　　育　　長	西川 和機
社会教育部長	高橋英比古
参事（文化財課長事務取扱）	桑原 泰豊
主幹（埋蔵文化財指導係長事務取扱）	渡辺 伸行
事務担当学芸員	西岡 功次 山本 雅和 佐伯 二郎 橋詰 清孝
埋蔵文化財調査係長	丹治 康明
文化財課主査	丸山 潔 菅本 宏明 千種 浩
事務担当学芸員	内藤 梢哉 西岡 誠司 安田 澄 須藤 宏 山口 英正 浅谷 誠吾 井尻 格 藤井 太郎 石島 三和 中村 大介 平田 朋子 中居さやか
調査担当学芸員	

主幹（復元計画センター西脇耕穂）

宮本 郁雄

口野 博史

岡野 豊

(財) 神戸市体育協会

会長	矢田 立郎
副会長	矢野栄一郎
常務理事	野浪 建作
総務課長	谷川 博志
総務課主査（兼務）	菅本 宏明
事務担当学芸員	中谷 正
調査担当学芸員	黒田 燕正
	谷 正俊
	阿部 敬正
	川上 厚志
	阿部 功

2. 本書に記載した位置図は、神戸市立中学校教育研究部編集（神戸市体育協会発行）5万分の1神戸市全図を、各遺跡の位置図は、神戸市発行2500分の1地形図を使用した。
3. II章「7. 花隈城跡 第1次調査」中のfig.57『揖津国花熊之城図』と現在の市街図の合成図作成にあたっては兵庫県『兵庫県史』第3巻付図8の『揖津国花熊之城図』を所有者の岡山大学附属図書館と兵庫県公館県政資料館の御承諾をいただき加工・利用させていただきました。
4. 本書は、埋蔵文化財発掘調査・観察に示した各調査担当学芸員が執筆し、I. 平成15年度事業の概要については橋詰 清孝・岡野 豊が、IV. 保存科学調査・作業の概要については中村 大介が執筆した。また編集については、丹治 康明の指導のもとに内藤 俊哉が行った。
5. 市内各遺跡の調査次数については、現在改正作業中である。
6. 表紙写真は白水瓢塚古墳第10次調査（本文181頁）出土の腕飾類で、裏表紙写真は花隈城跡第1次調査（本文49頁）出土の弥生土器である。

目 次

序

例言

I.	平成15年度 事業の概要	1
	平成15年度 埋蔵文化財発掘調査一覧	11
	平成15年度 神戸市埋蔵文化財調査位置図	16
II.	平成15年度の復興事業に伴う発掘調査	
1.	森南町遺跡 第2次調査	23
2.	郡家遺跡 第73次調査	25
3.	郡家遺跡 第74次調査	31
4.	郡家遺跡 第75次調査	35
5.	西求女塚古墳 第14次調査	37
6.	雲井遺跡 第17次調査	47
7.	花隈城跡 第1次調査	49
8.	楠・荒田町遺跡 第31次調査	59
9.	兵庫津遺跡 第32次調査	61
10.	兵庫松本遺跡 第17-1・2次調査	65
11.	御蔭遺跡 第52-1次調査	67
12.	御蔭遺跡 第52-2・53次調査	71
13.	神楽遺跡 第14次調査	75
14.	水笠遺跡 第26-1～3次調査	79
15.	二葉町遺跡 第17-1～7次調査	83
16.	松野遺跡 第38-1～4次調査	89
17.	戎町遺跡 第50-1～8次調査	91
18.	戎町遺跡 第44～49・51～55次調査	95
19.	太山寺遺跡	109
20.	水谷遺跡 第10次調査	111
21.	馬掛原遺跡 第1次調査	113
22.	慶明宮山遺跡 第1次調査	115
23.	出合遺跡	117
24.	細田遺跡 第1次調査	119
III.	平成15年度の通常事業に伴う発掘調査	
1.	森北町遺跡 第20次調査	123
2.	住吉宿町遺跡 第38次調査	125

3. 御影郷古酒蔵群 第2次調査	127
4. 御影郷古酒蔵群 第3次調査	129
5. 篠原遺跡 第22次調査	135
6. 日暮遺跡 第21次調査	139
7. 熊内遺跡 第4次調査	143
8. 熊内遺跡 第5次調査	147
9. 中遺跡	149
10. 野瀬北遺跡 第2-1~3次調査	153
11. 野瀬遺跡 第4次調査	157
12. 西北遺跡 第3次調査	163
13. 淡河城跡 第2次調査	167
14. 行幸町遺跡 第4-1~3次調査	169
15. 舞子砲台跡 第1~3次調査	177
16. 白水瓢塚古墳 第10次調査	181
17. 西戸田遺跡	185
18. 出合遺跡（上津橋地区）試掘調査	187
IV. 平成15年度の保存科学調査・作業の概要	191

挿図目次

fig. 1	白水瓢塚占墳	〔カラー写真〕	卷頭	fig.45	出土遺物実測図（5）	45	
fig. 2	兵庫津遺跡第32次調査	〔カラー写真〕	卷頭	fig.46	出土遺物	〔写真〕	46
fig. 3	兵庫津遺跡第32次調査（出土遺物）	〔カラー写真〕	卷頭	fig.47	調査地位位置図	47	
fig. 4	舞子砲台跡	〔カラー写真〕	卷頭	fig.48	調査区平面図	48	
fig. 5	戎町遺跡周溝裏出土遺物	〔カラー写真〕	卷頭	fig.49	調査地位位置図	49	
fig. 6	郡家遺跡第73次調査	〔カラー写真〕	卷頭	fig.50	S B01平面図・断面図	50	
fig. 7	企画展示「あの発見をもう一度」	〔写真〕	2	fig.51	S B01	〔写真〕	50
fig. 8	速報展示白木瓢塚占墳の発掘調査成果	〔写真〕	2	fig.52	調査区半面図	51	
fig. 9	出張学校展示	〔写真〕	3	fig.53	流路01・S K07断面図	51	
fig.10	出張学校講座	〔写真〕	3	fig.54	SW01	〔写真〕	52
fig.11	考古学講座	〔写真〕	5	fig.55	SW01平面図・断面図	52	
fig.12	大歳山まつり	〔写真〕	5	fig.56	SW01胴木	〔写真〕	53
fig.13	文化財詳細調査	〔写真〕	9	fig.57	『祇園花屋敷之城図』と現在の市街団の合成図	54	
fig.14	調査地位位置図	23	fig.58	出土遺物実測図（1）	55	
fig.15	調査区平面図	24	fig.59	出土遺物実測図（2）	56	
fig.16	調査地位位置図	25	fig.60	出土遺物実測図（3）	57	
fig.17	調査区平面図	26	fig.61	出土遺物実測図（4）	58	
fig.18	土器溜り平面図・立面図	26	fig.62	出土遺物	〔写真〕	58
fig.19	調査区全景	〔写真〕	27	fig.63	調査地位位置図	59	
fig.20	上器溜り	〔写真〕	27	fig.64	調査区断面図	59	
fig.21	出土遺物実測図（1）〔上器溜り〕	28	fig.65	調査区全景	〔写真〕	60
fig.22	出土遺物実測図（2）〔上器溜り〕	29	fig.66	調査区平面図	60	
fig.23	出土遺物〔土器溜り〕	〔写真〕	30	fig.67	調査地位位置図	61	
fig.24	調査地位位置図	31	fig.68	調査区配置図	62	
fig.25	調査区平面図・断面図	32	fig.69	調査区遠景	〔写真〕	62
fig.26	第1遺構面全景	〔写真〕	33	fig.70	調査区平面図・断面図	63	
fig.27	第2遺構面全景	〔写真〕	33	fig.71	出土遺物実測図	64	
fig.28	出土遺物実測図	34	fig.72	山上遺物	〔写真〕	64
fig.29	出土遺物	〔写真〕	34	fig.73	調査地位位置図	65	
fig.30	調査地位位置図	35	fig.74	S B04	〔写真〕	66
fig.31	2区・3区断面図	35	fig.75	調査地位位置図	67	
fig.32	1区平面図	36	fig.76	1区平面図・断面図	68	
fig.33	調査区配図	36	fig.77	第3遺構面全景	〔写真〕	69
fig.34	調査区断面図	36	fig.78	2区・3区平面図・断面図	70	
fig.35	調査地位位置図	37	fig.79	調査地位位置図	71	
fig.36	調査区平面図	38	fig.80	第1遺構面平面図	72	
fig.37	第1遺構面全景	〔写真〕	39	fig.81	第2遺構面平面図	72	
fig.38	第2遺構面全景	〔写真〕	39	fig.82	調査区断面図	73	
fig.39	出土遺物復元図	40	fig.83	出土遺物実測図	74	
fig.40	出土遺物実測図（1）	41	fig.84	第2遺構面全景	〔写真〕	74
fig.41	調査区断面図	41	fig.85	調査地位位置図	75	
fig.42	出土遺物実測図（2）	42	fig.86	S E01	〔写真〕	76
fig.43	出土遺物実測図（3）	43	fig.87	3区・4区全景	〔写真〕	76
fig.44	出土遺物実測図（4）	44	fig.88	調査区平面図・断面図	77	

fig.89	出土遺物実測図	78	fig.136	55次調査区平面図・周溝1立面図	108
fig.90	調査位置図	79	fig.137	周溝1 [写真]	108
fig.91	26-1・2次調査区平面図	80	fig.138	55次調査区全景 [写真]	108
fig.92	26-3次調査区全景 [写真]	81	fig.139	調査位置図	109
fig.93	26-3次調査区平面図	81	fig.140	調査区平面図・断面図	110
fig.94	S B101平面図・断面図	82	fig.141	調査位置図	111
fig.95	調査位置図	83	fig.142	調査区全景 [写真]	112
fig.96	17-2次調査区全景 [写真]	84	fig.143	調査区平面図	112
fig.97	17-1・2次調査区平面図	84	fig.144	調査位置図	113
fig.98	出土遺物実測図	84	fig.145	調査区全景 [写真]	114
fig.99	S E01 [写真]	85	fig.146	周溝盛 [写真]	114
fig.100	17-3次調査区平面図	85	fig.147	調査区平面図	114
fig.101	S E01平面図・断面図	85	fig.148	調査位置図	115
fig.102	17-4次調査区平面図	86	fig.149	調査区平面図	116
fig.103	17-5次調査区平面図	87	fig.150	調査位置図	117
fig.104	S B01P i 断面図	87	fig.151	調査区全景 [写真]	118
fig.105	17-6次調査区平面図	87	fig.152	調査区平面図・断面図	118
fig.106	17-5次S B01 [写真]	88	fig.153	調査位置図	119
fig.107	17-7次調査区平面図	88	fig.154	調査区断面図	120
fig.108	調査位置図	89	fig.155	第1遺構面平面図	120
fig.109	38-1次調査区平面図・断面図	90	fig.156	第1遺構面全景 [写真]	121
fig.110	38-3次調査区平面図・断面図	90	fig.157	第2遺構面全景 [写真]	121
fig.111	調査位置図	91	fig.158	第2遺構面平面図	121
fig.112	調査区位置図	92	fig.159	出土遺物実測図	122
fig.113	50-1・3・5・6次調査区平面図・断面図	93	fig.160	調査位置図	123
fig.114	50-5次調査区全景 [写真]	94	fig.161	調査区全景 [写真]	124
fig.115	50-6次調査区全景 [写真]	94	fig.162	調査区平面図	124
fig.116	調査位置図	95	fig.163	調査位置図	125
fig.117	調査区配置図	95	fig.164	苔石検出状況 [写真]	125
fig.118	44次調査区平面図	96	fig.165	第2遺構面平面図	126
fig.119	45次調査区平面図	97	fig.166	第1遺構面平面図・断面図	126
fig.120	46次調査区平面図	97	fig.167	調査位置図	127
fig.121	耕起痕 [写真]	98	fig.168	調査区全景 [写真]	128
fig.122	47次調査区平面図	99	fig.169	調査区平面図	128
fig.123	48次調査区平面図	99	fig.170	調査位置図	129
fig.124	49次調査区全景 [写真]	100	fig.171	槽場 [写真]	130
fig.125	49次調査区平面図・断面図	101	fig.172	男柱3 [写真]	130
fig.126	51次調査区平面図・断面図	102	fig.173	調査区平面図・断面図	131
fig.127	S D01内遺物出土状況 [写真]	103	fig.174	竈1 [写真]	132
fig.128	52次調査区平面図・断面図	103	fig.175	竈1平面図・断面図	132
fig.129	S D01断面図	103	fig.176	S X02 [写真]	133
fig.130	S D02平面図・断面図	104	fig.177	第1遺構面全景 [写真]	134
fig.131	53次調査区全景 [写真]	105	fig.178	調査位置図	135
fig.132	53次調査区平面図・断面図	105	fig.179	S D02断面 [写真]	136
fig.133	54次調査区平面図	106	fig.180	調査区平面図・断面図	136
fig.134	54次調査出土遺物実測図	107	fig.181	出土遺物実測図	137
fig.135	54次調査出土遺物 [写真]	107	fig.182	第1遺構面全景 [写真]	138

fig.183	調査地位置図	139	
fig.184	調査区配置図	139	
fig.185	調査区断面図	140	
fig.186	調査区平面図	141	
fig.187	I 区全景	〔写真〕	142
fig.188	出土遺物	〔写真〕	142
fig.189	調査地位置図	143	
fig.190	調査区半面図	144	
fig.191	第1遺構面全景	〔写真〕	145
fig.192	G r.-10號棺出土状況	〔写真〕	146
fig.193	G r.-10平面図・断面図	146	
fig.194	出土遺物実測図	146	
fig.195	出土遺物	〔写真〕	146
fig.196	調査地位置図	147	
fig.197	調査区配置図	148	
fig.198	調査区平面図	148	
fig.199	調査地位置図	149	
fig.200	I 区集石・杭出土状況	〔写真〕	150
fig.201	I 区半面図・断面図	150	
fig.202	II 区半面図・断面図	151	
fig.203	II 区全景	〔写真〕	152
fig.204	調査地位置図	153	
fig.205	7 区平面図	154	
fig.206	8 区平面図	155	
fig.207	10区半面図	156	
fig.208	調査地位置図	157	
fig.209	調査区平面図	158	
fig.210	調査区全景	〔写真〕	158
fig.211	S B 03・04・05・S E 01平面図・断面図	159	
fig.212	S X 03半面図・断面図	160	
fig.213	S K 03平面図・断面図	160	
fig.214	S K 03	〔写真〕	160
fig.215	S T 03平面図・断面図	161	
fig.216	S T 03	〔写真〕	161
fig.217	S T 04平面図・断面図	161	
fig.218	S T 04	〔写真〕	161
fig.219	S T 05平面図・断面図	161	
fig.220	S T 05	〔写真〕	161
fig.221	調査地遠景	〔写真〕	162
fig.222	調査地位置図	163	
fig.223	調査区平面図	164	
fig.224	S K 02・03平面図・断面図	165	
fig.225	調査区全景	〔写真〕	166
fig.226	調査地位置図	167	
fig.227	洞窟内(須恵器の世懸・埴輪)須恵器始動部・断面	168	
fig.228	調査区平面図	168	
fig.229	調査地位置図	169	
fig.230	4 - 1 次調査区平面図・断面図	170	
fig.231	4 - 2 次調査区平面図	171	
fig.232	S T 01・02	〔写真〕	172
fig.233	4 - 2 次調査区全景	〔写真〕	172
fig.234	S E 01	〔写真〕	173
fig.235	4 - 3 次調査区平面図	174	
fig.236	4 - 3 次調査区全景	〔写真〕	175
fig.237	調査地位置図	177	
fig.238	調査区平面図	178	
fig.239	調査地遺跡	〔写真〕	180
fig.240	2 次調査区全景	〔写真〕	180
fig.241	3 次調査区全景	〔写真〕	180
fig.242	調査地位置図	181	
fig.243	調査区配置図	182	
fig.244	粘土棒	〔写真〕	184
fig.245	埋葬施設	〔写真〕	184
fig.246	石製腕輪類出土状況	〔写真〕	184
fig.247	調査地位置図	185	
fig.248	調査区半面図	186	
fig.249	調査地位置図	187	
fig.250	I 区調査地点(全域要調査範囲)	188	
fig.251	II 区調査地点(網点部分要調査範囲)	189	
fig.252	III 調査地点(網点部分要調査範囲・白部分尚調査範囲)	190	
fig.253	阪神・淡路大震災で壊壊した碑	〔写真〕	191
fig.254	接合後、石材強化剤を滴下	〔写真〕	191
fig.255	ボリエチレンシートを被せ、含浸	〔写真〕	191
fig.256	含浸後、乾燥中状況	〔写真〕	191
fig.257	出土直後	〔写真〕	192
fig.258	P E G 含浸作業	〔写真〕	192
fig.259	P E G 含浸完了後	〔写真〕	192
fig.260	焼印	〔写真〕	192
fig.261	人骨出土直後	〔写真〕	193
fig.262	人骨養生後周開掘り下げ作業	〔写真〕	193
fig.263	下面トンネル掘削作業	〔写真〕	193
fig.264	吊り下げ	〔写真〕	193
fig.265	青銅鏡出土状況	〔写真〕	194
fig.266	アクリル系合成樹脂を塗布	〔写真〕	194
fig.267	取り上げ作業	〔写真〕	194
fig.268	取り上げ後、鏡背状況	〔写真〕	194
fig.269	鉄製武器出土周開掘り下げ状況	〔写真〕	194
fig.270	下面トンネル掘削作業	〔写真〕	194
fig.271	取り上げ作業	〔写真〕	194
fig.272	取り上げ後状況	〔写真〕	194
fig.273	カマド跡検出状況	〔写真〕	195
fig.274	エポキシ系合成樹脂塗布作業	〔写真〕	195
fig.275	剥ぎ取り状況	〔写真〕	195
fig.276	搬送後、洗浄作業	〔写真〕	195

I. 平成15年度 事業の概要

1. はじめに

阪神・淡路大震災の発生から9年目を迎え、震災復興区画整理事業などの震災復旧・復興事業も軌道に乗り推進されている。震災復旧・復興事業関連の埋蔵文化財保護の対応として、被災者である個人及び、中小企業が建設する建物に伴う工事については、補助事業を適用して発掘調査を実施している。本年度も震災復興区画整理事業地内に存在する戎町遺跡で12件、御蔵遺跡で2件、松野遺跡で1件、水笠遺跡で1件、兵庫松本遺跡で1件の発掘調査を行った。

開発指導の面では、平成11年6月より建築確認申請の事前届出書の閲覧により、周知の埋蔵文化財包蔵地内の建築行為に対し、文化財保護法に基づく発掘届出書の提出及び土木工事についての取扱いの指導を徹底している。また、平成12年度より導入・運用している埋蔵文化財情報管理システムでは、過去の試掘・確認調査のデータ等を集中管理しており、届出や通知、各種開発事前審査の審査・指導（回答）や窓口の事前相談や問合せについて円滑かつ正確な回答が行われている。

埋蔵文化財保護行政の基礎となる遺跡地図の整備についても分布調査や過去の調査データに基づき整備を行っている。分布調査として住吉川流域の水車群について詳細調査を実施した。近世中期から近代に至る遺跡ではあるが、神戸を代表する産業遺跡として分布調査の成果を遺跡地図に掲載した。

遺跡の保存を目的とし、将来の活用や史跡指定のための確認調査も4件実施した。いずれも地域住民の保存・活用の意識が高く、当市の歴史を語る上で重要な遺跡の調査である。保存目的の調査成果として、白水瓢塚古墳が兵庫県指定史跡となった。

埋蔵文化財の活用・普及啓発の活動として、発掘調査期間中に調査現場を公開し、その成果を公開する現地説明会、地域住民の要望による遺跡公開を行っている。

また、これまでに蓄積された発掘調査の資料を活用した普及啓発事業が埋蔵文化財センターで行われている。

2. 普及啓発

〔埋蔵文化財センター〕

活動 神戸市教育委員会が実施した市内の発掘調査で得られた各種の記録や出土遺物は、すべて埋蔵文化財センターに集積されている。また同時に出土遺物を整理・収蔵・保存・公開する拠点である。埋蔵文化財センターでは常設展示室・企画展示室・収蔵展示室を公開し、また特別収蔵庫の中や、遺物整理室の中をのぞけるようにしている。平成15年度の入館者は24,809人で、前年度比9.5%の増加であった。

企画展示 今年度は3回の企画展示を実施した。春の企画展示『昔なにやったん？この学校』では、学校教育と社会教育との連携が求められている中、市内の小中学校用地の真下や、あるいは校区内にも遺跡が存在している事例を紹介し、身近な所にも昔の人々の生活が存在していたことを展示了した。夏の企画展示『あの発見をもう一度！—神戸の歴史を再現する—』では、発掘調査で現地説明会などを実施した時でも現地での貴重な体験はその場限りにな

	展示内容	開催期間	入館者数
春	昔なにやったん？この学校	4月5日～6月15日	12,254名
夏	あの発見をもう一度！－神戸の遺跡を再現する－	7月26日～9月7日	3,049名
秋	昔の絵・本に出てくる遺跡	10月11日～11月24日	2,396名
入館者合計			17,699名

りがちであるが、遺跡の一部をそのまま切り取ったり、剥ぎ取ったりして持ち帰ることによってその臨場感を保つことを展示した。秋の企画展示『昔の絵・本に出てくる遺跡』では、古代から近世の文献や絵巻物といった文字や絵に残された資料と、それらに関係する市内の遺跡の発掘調査から判った内容とを比較し、昔の人々もそれ以前の神戸の歴史をどのように見ていたのかうかがえる展示をした。

速報展示

今年度に市内で実施した発掘調査のうち、新聞等に取り上げられて話題性の高かった内容の成果をいち早く公表するため、2回の速報展示を実施した。学史的に有名な白水瓢塚古墳の調査では一部分盗掘を受けていたものの、画文帶神獸鏡1面と、石剣9個、車輪石4個が出土した。実態がよく判っていない花隈城跡の調査では城の付属施設の石垣が検出された他、魚の線刻がある弥生土器が出土した。

展示内容	開催期間
白水瓢塚古墳の発掘調査成果	9月6日～9月7日
花隈城跡第1次発掘調査の概要	9月20日～9月23日

館外展示

市内の身近な遺跡を紹介して地域の歴史について理解を深めてもらうことを目的とし、地域の施設を利用して展示会を開催した。今年度は北区道場町の農村環境改善センター、長田区のアスタギャラリー、須磨区のすまいるプラザ大黒で開催した。すまいるプラザ大黒では古代体験教室として土器づくり・勾玉づくりも開催した。この他に神戸西部地区観光施設協議会主催で例年開催している埋蔵文化財センターの施設紹介の展示に今年度も加わった。



fig. 7 企画展示『あの発見をもう一度』



fig. 8 速報展示 白水瓢塚古墳の発掘調査成果

展示場所	展示内容	開催期間
花時計ギャラリー	ウエストコウベ パネル展	7月9日～7月22日
しあわせの村	ウエストコウベ パネル展	10月15日～11月30日
農村環境改善センター	道場展 北区の古墳	11月2日～11月3日
アスタギャラリー	アスタくにづか発掘展－地下に眠る中世の遺跡－	3月6日～3月14日
すまいるプラザ大黒いどばたギャラリー	須磨の古代・戎町遺跡調査速報展	3月19日～4月7日

出張学校展示　社会教育との連携といった視点だけではなく、遺跡から出土した実物の資料を、子供たちが通う小学校で直接見ることによって、その小学校がある地域の歴史や文化を学び、また再認識することができるようとの目的で、平成10年度から希望のあった市内の小学校で展示会を開催している。展示では主に小学校の近くの遺跡から出土した遺物を並べ、期間中には学芸員による展示解説も実施している。その際には子供たちに遺物を実際に手にとってもらい、本物の感触を味わってもらったりもしている。今年度は5校、8回の展示を実施した。

小学校名	展示内容	開催期間	展示解説	受講人数
伊川谷小学校	おまつりのお話～古墳時代編～	5月6日～5月19日	5月12日	202名
兵庫大開小学校	兵庫は昔、「首都」だった!?	5月6日～5月30日	5月15・29日	266名
西山小学校	どんな家に住んでたの??	5月13日～5月23日	5月23日	170名
有瀬小学校	有瀬の近くにもありまっせ!!	5月19日～5月30日	5月20日	150名
若宮小学校	となりのムラは親せきでした!?	6月5日～7月9日	6月10日	60名
若宮小学校	神戸にもあった豪族の館	11月5日～12月16日	12月10日	60名
兵庫大開小学校	ここまでわかった!!上沢遺跡	11月5日～12月16日	—	—
兵庫大開小学校	最近見つかった古墳時代のムラ	2月2日～2月27日	2月10日	133名
受講人数合計				1,041名



fig.9 出張学校展示



fig.10 出張学校講座

出張学校講座 平成12年度から実施している講座で、小・中学校を対象に実際に自分の手でものを作ることによって、当時の人々の暮らしの工夫や技術が体験できる内容としている。特に近年は主要教科以外の授業時間数が減少している関係から子供たちがものを作りだす体験が少なくなっている、子供たちのみならず教諭の方々にも大変好評で、希望校が年々増加傾向にある。今年度は34校で実施した。

講座名	開催日	学校名	人数	講座名	開催日	学校名	人数
勾玉・七器・貢頭衣	4月17日	伊川谷小学校	202名	ドングリクリッキーザブリ	5月19日	垂水小学校	41名
勾玉づくり	4月22日	鶴越小学校	38名	ドングリクリッキー・貢頭衣	5月21日	北須磨小学校	58名
勾玉づくり	4月23日	店舗小学校	99名	勾玉づくり	5月23日	兵庫大開小学校	133名
勾玉づくり	4月24日	上熊井小学校	56名	土器づくり	5月26日	南五葉小学校	61名
土器づくり	4月25日	木津小学校	67名	ドングリクリッキーザブリ	5月29日	御歳小学校	30名
勾玉づくり	4月28日	灘小学校	46名	勾玉づくり	5月30日	竈ヶ台小学校	63名
貢頭衣づくり	4月28日	谷上小学校	13名	ドングリクリッキーザブリ	5月31日	蘿原台小学校	105名
貢頭衣づくり	5月2日	北山小学校	75名	土器づくり	6月3日	花谷小学校	113名
土器づくり	5月6日	摩耶小学校	78名	勾玉づくり	6月5日	箕谷小学校	116名
ドングリクリッキーザブリ	5月8日	花山小学校	82名	勾玉づくり	6月6日	樺谷小学校	19名
土器づくり	5月9日	狩端台小学校	61名	ドングリクリッキーザブリ	6月12日	広陵小学校	110名
勾玉づくり	5月12日	多聞南小学校	25名	勾玉づくり	6月13日	長田小学校	72名
勾玉づくり	5月13日	柱木小学校	102名	土器づくり	6月27日	横尾小学校	87名
貢頭衣づくり	5月14日	多聞東小学校	73名	貢頭衣づくり	7月10日	本山第一小学校	178名
勾玉づくり	5月15日	宮本小学校	50名	ドングリクリッキーザブリ	9月11日	泉台小学校	88名
土器づくり	5月15日	太山寺小学校	6名	貢頭衣づくり	9月12日	蘿原台小学校	85名
勾玉づくり	5月16日	小部小学校	88名	勾玉づくり	10月21日	友生養護学校	7名
受講人數合計							2,530名

考古学講座 「親子で体験考古学講座」は学校週休2日制が実施された平成6年度から実施している講座で、当初は体験を通じて昔の人々の暮らしの工夫や技術に学ぼうという趣旨で、第2土曜日の催し物であった。その後土曜日が完全に休日になった以降は、主に夏休みの期間中にを中心に土曜日の催し物として続けられている。対象は小学校高学年から中学生で、小学生は保護者の参加も求めている。また高校生以上一般成人を対象としたもう少し内容を高度にした「体験考古学講座」も平成8年度以降実施されている。両者ともに好評である。

公民館講座 夏休みの公民館事業として平成14年度に統一して開催された。小中学生を対象としたサマースクール中の1講座として3公民館から依頼を受け、勾玉などの古代のアクセサリーづくりの体験考古学講座を実施した。内容は埋蔵文化財センターでの「親子で体験考古学講座」の「勾玉をつくろう」とほぼ同じである。

『親子で体験 考古学講座』			
講 座 名	開催日	内 容	参加者数
縄文時代のハッパを探そう	5月24日	遺跡から持って帰った土の中から葉を探し出し、ラミネートフィルムに封入する。	38名
石包丁をつくろう	7月19日	粘板岩で石包丁などの磨製石器を作る。	18名
勾玉をつくろう	8月9日	軟らかい印材で勾玉などのアクセサリーを作る。	191名
土器・埴輪をつくろう	8月23日	自然乾燥で硬化する粘土で土器や埴輪を作る。	133名
勾玉をつくろう	8月30日	軟らかい印材で勾玉などのアクセサリーを作る。	159名
どんぐりで縄文クッキーをつくろう	12月13日	ドングリとドングリの粉で当時のクッキー状の食べ物を焼く。	65名
参加者数合計			605名

『親子で『赤米作りに挑戦しよう』』			
講 座 名	開催日	内 容	参加者数
貴賀衣をつくって田植えに挑戦！	6月21日	西区の神出自然教育園の水田で古代米を実際に田植えし、	70名
田んぼの草取りと石包丁づくり	7月26日	秋の収穫までを体験する。	109名
自分でつくった石包丁で収穫に挑戦！	10月25日		53名
参加者数合計			232名

『体験 考古学講座』			
講 座 名	開催日	内 容	参加者数
土器・埴輪・土笛をつくろう	11月15日	焼物用の粘土で土器や埴輪、土笛を成形する。	42名
	11月29日	乾燥させた土器等を実際に野焼きで焼成する。	11名
古代のアクセサリー 勾玉・菅玉をつくる	3月13日	少し硬い印材で勾玉や菅玉などのアクセサリーをつくる。	65名
参加者数合計			118名

公 民 館 名	開 催 日	講 座 名	受 講 人 数
玉津南公民館	7月29日	サマースクール古代人に挑戦！～勾玉づくり～	30
東垂水公民館	7月30日	サマースクール古代人に挑戦！～勾玉づくり～	24
菖蒲公民館	7月31日	サマースクール古代人に挑戦！～勾玉づくり～	20
受講人数合計			74



fig.11 考古学講座



fig.12 大歳山まつり

その他の講座 上記の定期的な講座以外にも、依頼を受けて下記の各種講座を実施した。埋蔵文化財センターに来館して実施したものと、現地に赴いて実施したものがある。また内容は体験考古学講座の形式のものと、通常の講義形式あるいは見学会形式のものがある。

埋蔵文化財センター講座(団体参加)			
開催日	講 座 名	団 体 名	受講人数
6月13日	勾玉づくり	兵庫県私立小学校連絡会	16
8月20日	勾玉づくり	小野市立好古館	39
10月7日	石包丁づくり	宝塚市立西谷小学校	28
2月21日	勾玉づくり	玉津南公民館	24
受講人数合計			107

各種出張講座			
開催日	講 座 名	開 催 場 所	受講人数
9月13日	遺跡探訪と玉津処理場見学	西水環境センター～吉田郷上館	14
12月9日	遺跡から学ぶ神戸の歴史	玉津南公民館	8
3月20日	古代体験教室(土器づくり・勾玉づくり)	すまいるプラザ大黒	28
受講人数合計			50

その他の催し 西神中央駅東側の広場で開催された地域の催し物にも積極的に参加し、埋蔵文化財センターの施設紹介・考古学講座の案内の他、子供の参加者向けには土器パズル・火起こし体験・古代米配布を実施した。

催 し 物 名	開 催 日	埋蔵文化財センターのブースの参加者数
第21回 みどりと太陽のまつり	5月17日	500
第7回 西区福祉・健康フェア	10月19日	400

〔文化財保護強調週間の催し〕

垂水区の大歳山遺跡公園で11月1日(土)に『おおとしやままつり 2003』を垂水区と連携して開催した。地域に残っている埋蔵文化財を日常の生活の中に活かすことを、その地域の人々と一緒にになって考える試みであり、毎年少しづつ内容を変えながら開催している。今年度は復元された竪穴住居の内部を公開するとともに、古代人の生活体験として土器づくり・勾玉づくり・火起こし体験・古代米の試食・土器パズルを行った。また塩焼きの実演を行い、木製の臼と杵を使った脱穀・古代表装の試着は自山参加とした。会場内の別のブースでは地元のボランティアの方々によるリース作りも行われた。当日の参加者数は450人であった。

〔発掘調査現地説明会の開催と報道関係資料提供〕

発掘調査において重要な発見があった場合、市役所内の市政記者クラブで発表を行っている。また、現地発掘調査期間中の現地説明会の開催や、要望があれば地域住民を対象とした遺跡の公開・説明会を実施している。

遺跡の公開			
遺 跡 名	開 催 日	内 容	見 学 者
野瀬遺跡	平成16年3月6日	中世の掘立柱建物・木棺墓等の検出	約70名
行幸町遺跡	平成16年3月7日	中世の溝・木棺墓等の検出	約200名
記者発表と現地説明会			
遺 跡 名 等	発 表 日	内 容	現地説明会開催日
兵庫津遺跡	平成15年6月27日	奈良～平安時代にかけての港湾施設と考えられる遺構を検出。	
御影郷古酒蔵群	平成15年7月31日	江戸時代後期の酒蔵と酒造関連遺構を検出	平成15年8月3日～8月5日 450名
白水瓢塚古墳	平成15年9月2日	古墳時代前期前方後円墳の埋葬施設を調査	
花隈城跡	平成15年9月12日	戦国時代の石垣の発見 弥生時代の魚の絵画土器の出土	埋蔵文化財センターで公開 平成15年9月20日～23日
舞子砲台跡	平成15年12月17日	緊張の幕末を物語る舞子砲台跡 よみがえる	
舞子砲台跡	平成16年3月15日	W字型の稟堡式と確定	

〔資料の貸出〕

平成14年4月に制定した『所蔵資料の貸出し基準』に基づいた資料の貸出は、7件、52点（土器・瓦等 38点、石製品、石器 6点、金属器 2点、遺構切取り資料 2点、自然遺物等 4点）があった。写真資料の貸出は、36件、144点。特別利用 20件

〔刊行物〕

平成15年度の刊行物は以下の8点である。

平成13年度 神戸市埋蔵文化財年報	平成15年3月発行	額価 1,100円
住吉宮町遺跡 第37次調査発掘調査報告書	平成15年3月発行	額価 500円
二ノ宮遺跡 第2次調査発掘調査報告書	平成15年3月発行	額価 700円
木庄町遺跡 第9次調査発掘調査報告書	平成15年3月発行	額価 1,300円
小路入町遺跡 第4次調査発掘調査報告書	平成15年3月発行	額価 1,500円
上沢遺跡 III 第38・46・50次調査発掘調査報告書	平成15年3月発行	額価 1,400円
御影郷波がえし蔵一御影郷古酒蔵群第2次発掘調査の記録一	平成15年3月発行	非売品
神戸市埋蔵文化財分布図	平成15年3月発行	額価 600円

4. 開発指導 瞽知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等については、開発面積の大小に関わらず文化財保護法に基づく届出・通知（文化財保護法第57条の2・同法第57条の3）が必要であり、必要とされる保護策を指示している。平成15年度の文化財保護法に基づく届出・通知についての件数は別表のとおりである。

平成11年度より開始された『神戸市民の住環境をまもりそだてる条例』に基づく事前届出制度における事前届出書の閲覧により、埋蔵文化財発掘届書の提出及び土木工事についての取り扱いの指導を徹底してきた。

本年度の届出・通知件数は、前年度をわずかに上回る656件であった。その内、民間事業者や個人が提出する文化財保護法第57条の2による届出は597件、事業者が公的機関の同法第57条の3に基づく通知は、59件であった。届出・通知に関する指示の内容は、事前の発掘調査が45件、工事施工時に確認する工事立会が52件、工事による埋蔵文化財に影響がなく慎重に工事実施を指示した件数が514件であった。

建築確認事前届出書閲覧以前の平成10年度では、届出・通知件数は237件で、事前届出書の閲覧以降、その件数は3倍以上に急増し、平成12年度では813件とピークを迎えていた。その後、平成13～14年度へは1割程度ずつの減少を見せてはいたが、本年度は、前年度をわずかに上回る657件の届出・通知があった。神戸市内の建築確認申請の申請件数の連動するような動きを見せているが、概観すると、平成12年度までの届出・通知件数の急増は、復興区画整理事業の推進に伴う街路・宅地の完成に伴う住宅・店舗等の建築、住宅供給事業としての共同住宅建設の増加によるものであり、平成13年以降は、特に復旧・復興事業関連の届出・通知件数が減少している。また、神戸市開発指導要綱に基づく各種開発行為事前審査は、前年度と比べ24件の減少となっている。

これらの埋蔵文化財発掘届出・通知及び各種開発行為事前審査の取扱いは、周辺調査データに基づく書類審査と試掘調査によって決定している。その試掘調査は、277件で前年度より僅かに6件減少となっている。

試掘調査の減少は、届出・通知件数の減少にもよるが、試掘調査を行わないで、周辺の試掘・発掘調査のデータの蓄積によって、届出・通知・開発行為事前審査の取扱いを7割程度行っているためでもある。平成12年度に導入し運用している埋蔵文化財情報管理システムが円滑に活用されている結果でもある。このシステムにより、窓口における事前の調整や相談においても迅速・正確に対応することができている。また、今年度、ホームページの開発を行った。

埋蔵文化財発掘調査の届出（地方公共団体以外が行う調査・文化財保護法第57条の1）は3件あった。いずれも民間の調査者によるもので、兵庫県教育委員会及び当市教育委員会の指導に基づき調査を実施している。開発事業者と事業者、当市教育委員会の三者において、埋蔵文化財発掘調査を適正に行うための覚書を締結し、調査を実施している。その中で、弥生時代後期から古墳時代後期の堅穴住居や掘立柱建物を検出した郡家遺跡の調査では、ウシの下顎骨を納めた古墳時代後期の祭祀土坑が検出され、調査期間中に現地説明会が開催された。

5. 調査事業

平成15年度に実施した発掘調査費（出土整理・保存処理を含む）の総額は、545,763千円であり、平成14年度実績より39,648千円増加した。

その内訳は、発掘調査事業費の約9割を占める開発事業に伴う本発掘調査に要した費用は、489,759千円（277件）で、遺跡の保存目的の範囲内容確認調査は7件で、22,641千円、試掘・確認調査が227件、21,648千円であった。

国庫補助事業

埋蔵文化財緊急調査費国庫補助事業は、事業費110,000千円であった。その内訳は、個人住宅等各種開発事業に伴う事前調査である試掘・確認調査が23,753千円、農業基盤整備事業（圃場整備事業）に伴う試掘・確認調査1,569千円、遺跡の保存目的の範囲確認調査（白水瓢塚古墳・舞子砲台跡・端谷城跡・淡河城跡）19,886千円、農業基盤整備事業（圃場整備事業）に伴う発掘調査が2件・2,242千円、個人住宅や共同住宅等に伴う発掘調査が29件・43,530千円（内訳：復興事業28件・42,514千円、通常事業1件・1,016千円、その内の事業種別では個人住宅等26件・39,499千円、零細事業者4件・4,031千円）、報告書作成のための整理・報告書作成等は3件・14,866千円、遺跡地図作成等は3,998千円、他の経費は204千円であった。

文化財保存事業費としては、兵庫津遺跡第15次調査出土金属製品の保存処理事業として36点（銅製品21点・鉄製品15点）の保存処理を行い、その事業費は1,000千円であった。

保存目的調査

保存目的の調査としては、白水瓢塚古墳・端谷城跡・淡河城跡・兵庫津遺跡（大輪田泊関連）の4遺跡で実施した。いずれも当市において重要な遺跡であり、将来史跡指定をめざすものであり、その保護・保存に関わる資料を得る為に複数年の計画で確認調査を実施している。

史跡指定

昭和61年度より範囲確認調査を行ってきた白水瓢塚古墳は、本年度においても後円部の埋葬施設の調査を実施し、割竹形木棺を埋納した粘土郷で、銅鏡・勾玉・菅玉・ガラス玉・緑色凝灰岩製腕飾類・鉄製品など出土している。これまでの確認調査で、柄鏡形の墳形をとる明石川流域では最古の古墳であり、古墳の周間に多数の埴輪円筒棺を伴う全国的にみても特異な古墳である。土地所有者の理解もあり、史跡として指定し、現状のまま保存することとなった。（兵庫県指定史跡：指定年月日・平成16年3月9日）

詳細調査

埋蔵文化財保護の基礎となる周知の埋蔵文化財の指定及び遺跡地図作成のため、踏査による分布調査を実施している。今回は、住吉川流域の水車群について平成16年3月15日から3月19日の間分布調査を実施した。六甲山南麓の水車群は菜種油等の搾油業や醸酒の精米などの精米業を中心として近世中期から近代に至り栄えた産業栄えた産遺跡である。住吉川流域の水車群においては、水車小屋等の建造物の大半が失われ、水車小屋の痕跡や龍壺・水路などの遺構が遺存している。

分布調査では、水車関連遺構の現状把握をし、分布図の作成を行った。その成果を遺跡地図に反映した。今後は、確認調査を実施して、遺構の詳細を把握し、これらの遺跡の保護を図っていく予定である。



fig.13 文化財詳細調査

文化財保護法に基づく届出・通知、試掘依頼等 発掘調査、整理作業件数一覧

No.	内 容	件 数
1	発見、発掘届・通知	657件
i	調査のための発掘届（57条第1項）	3件
	民間事業に伴う発掘届（57-2）	597件
	通常事業関連	574件
	復興事業関連	23件
ii	公共事業に伴う発掘通知（57-3）	59件
	通常事業関連	57件
	復興事業関連	2件
iii	発見届・発見通知（57-5・6）	1件
2	発掘調査の報告（保護法58条2）	70件
3	開発行為事前審査等各種申請	126件
4	試掘調査（依頼件数）	277件
i	通常事業関連	262件
	通常公共関連	62件
	通常民間関連	200件
ii	復興事業関連	15件
	復興公共関連	4件
	復興民間関連	11件
5	工事立会	52件

No.	内 容	件 数
1	発掘調査（大規模確認調査も含む）	66件
i	公共事業に伴う発掘調査	19件
	通常事業関連	1件
	復興事業関連	18件
ii	民間事業に伴う発掘調査	42件
	通常事業関連	11件
	復興事業関連	31件
iii	開場整備事業に伴う発掘調査	5件
2	整理作業（復興調査整理作業を含む）	8件

発掘調査面積（単位：m²）

	公共事業関連	民間事業関連	計	延べ調査面積
通常事業	3,170	3,366	6,536	7,900
復興事業補助事業	0	2,966	2,966	3,200
復興事業受託事業	9,815	723	10,538	17,259
計	12,985	7,055	20,040	27,459

発掘調査面積別件数

調査面積	件 数	調査面積	件 数
～ 100m ²	33	1,001 ～ 2,000m ²	6
101 ～ 300m ²	16	2,001 ～ 5,000m ²	0
301 ～ 500m ²	4	5,001m ² 以上	0
501 ～ 1,000m ²	9	合 計	68

平成15年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表（復興事業に伴う調査）（1）

番	施設名	所在地	発起主体	調査担当者	調査面積 延床面積	実施期間	調査内容	調査原因
1	自南江浦駅 第2次調査	東相模森町3丁目13番	湘南市体育協会	黒川政正	533m ² 1,066m ²	10.07.14～15, 11.10	震災時代後期の土器、先秦時代中期の陶、平安時代初期水古墳時代出埴の陶、孟司・江戸時代の瓦片・土器。	区间整理 （区间整理事業）
2	御影和光消防署	高尾区御影1丁目47-1, 47-2, 47-3, 47-4, 47-5, 47-6, 48-1, 48-2, 48-3, 48-4, 48-5, 48-6, 48-7, 48-8, 48-9, 48-10, 48-11, 48-12	神戸市教育委員会	須崎 宏	65m ² 65m ²	15.04.09～12, 04.29	古墳石室石棺中継、乙窓 近世、近代、現代の3窓の通構造を確認。	相模原地区会 （相模原地区会）
3	御影和光消防署	足尾区御影石町1丁目47-6	神戸市教育委員会	後谷誠哉	50m ² 30m ²	16.03.16～16.03.29	東正社石室 江戸時代中期の瓦石式石室型の石門、江戸時代中期～後期の石舟、碇石、江戸時代後期以降の建物瓦を確認。	相模原地区会 （相模原地区会）
4	郡家道路 第73次調査	東灘区御影町1丁目174-5, 174-6, 174-7, 174-8	神戸市教育委員会	後谷誠哉	100m ² 200m ²	15.05.05～15.05.05	5.6×2.9mの方形堅双住塚1棟、山路上1条、土塁6基を確認。	個人住宅 （相模原地区会）
5	郡家道路 第74次調査	東灘区御影町1丁目179-13 (東洋ビル) 半井の里小向賀 新築工事用立替 7-1 (7-2)	神戸市教育委員会	井尻 修	90m ² 180m ²	15.06.15～15.06.03	第1造跡では古墳沖合跡の完別の現況を記 合意地ならび、第2造跡では古墳時代の瓦・ 瓦筒・ビードなどを確認。	個人住宅 （相模原地区会）
6	御影消防 第75次調査	東灘区御影町御影 字牛本	神戸市教育委員会	須崎 宏	80m ² 110m ²	15.11.15～15.12.15	生田時代の土器・瓦、中世の柱穴・落ち込み を確認。	区间整理
7	塩池営業 第25次調査	洞元町北4丁目1巷1号	神戸市教育委員会	越井大郎	12m ² 12m ²	15.05.30～15.05.22	塩池面屋上から確認した遺物小行挖掘。今作 的に斜面に伴う地形改変？	個人住宅 （相模原地区会）
8	塩池営業 第24次調査	洞元町南4丁目20-4	中戸寺教育委員会	片治順彦 内藤俊樹	70m ² 70m ²	15.10.30～15.10.24	生田時代後期～古墳時代初頭の遺物を大量に山 谷・谷に向って傾斜する落ち込み？を確認。	個人住宅 （相模原地区会）
9	吉永女郎古墳 第14次調査	御影新3丁目58 号、38番4、52番 の一部	神戸市教育委員会	須崎 宏	240m ² 320m ²	15.05.16～15.10.17	古く古い落ち込み（吉永女郎古墳周辺跡？）・ 古代の埋立柱跡1棟	区间住宅 （相模原地区会）
10	豊島道路 第15次調査	中央区豊島3丁目31-1, 31-2, 31-32	神戸市教育委員会	中川さやか	212m ² 212m ²	15.04.01～15.04.14	第3横構造（火葬式墓道跡）と下層の跡も割り 調査。土塁2基、ピット9基を確認。	井川住宅 （相模原地区会）
11	花園城跡 第1次調査	山手区下山手通4丁目16-2	神戸市教育委員会	須崎 宏	1,000m ² 1,000m ²	15.07.07～15.09.19	先秦時代中期の竪穴住居・溝（馬糞糞の跡生 産・肥料貯蔵）、花園城跡の石碑？ 【9/7～25山手連絡公園】	教育再生 （国際交流基金）
12	坂・芦田町道路 第33次調査	兵庫区坂1通1丁目1-17	神戸市教育委員会	河部 功	60m ² 60m ²	15.04.09～15.04.16	北東から南西方向に延びる複数通路。程原寮回 廊？	個人住宅 （国際交流基金）
13	兵庫津消防 第33次調査	兵庫区芦原通1丁目2	神戸市教育委員会	植林達平	40m ² 50m ²	15.06.04～15.06.06	兵庫時代～平安時代前期にかけての溝・柱穴を 検出。生きの塗について、渾潤凹凸の可逆性 も考え方される。	相模原地区会 （相模原地区会）
14	長所松木溝跡 第17次調査	兵庫区松木溝3丁目	神戸市教育委員会	阿部雅史	126m ² 364m ²	15.05.06～15.05.10	先秦時代後期の流路・ピット、生田時代後期の 土塁・ゾート、先秦時代末～古墳時代初期の等 穴住器3種・溝・落ち込みなどを確認。	区间整理
15	二町町役場 第17次調査	長所2丁目2-2芝町6丁目・久保町5丁目	神戸市教育委員会	黒田政正・ 石島三郎	1,069m ² 1,060m ²	15.06.20～16.03.16	11世紀代の漆（17-1）、小切（17-2）、鍍 銀時代初期の柱礎石3種・柱2基（17-3）、簾 移作器（17-4）、先秦前期の、平安時代後期立 壁物・土塁・柱・溝・落ち込みなどを確認。	市街地開拓光 輝（相模原地区会）

平成15年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表（復興事業に伴う調査）（2）

No.	調査名	所在地	調査主体	調査没印 記調査面積	調査期間	調査内容	調査原因
16	御藏遺跡 第5次調査	長田区朝日町 5・ 6丁目	神戸市体育協会	西洞内沢・ 谷・正根・ 須崎 宏 126af 330af	15.05.22～16.11.14	平安時代の井戸、山長～平安時代の溝・ピット、落ちいろ、平安木～鎌倉の遺構面などを確認。 （52.1～2）	区画整理 （工場付付地）
17	御藏遺跡 第55次調査	長田区御藏通 6丁目 105, 106, 107, 108, 40-2	神戸市教育委員会	須藤 宏 50af 84af	15.10.22～15.11.13	井戸類の柱穴、古墳時代初期の水田	沿岸・工場付付地 (国際競争事業)
18	神葉遺跡 第14次調査	長田区神葉町 2丁 目6-2	神戸市教育委員会	阿部敬生 30af 30af	15.07.07～15.07.11	古墳時代後期の井戸・ピットなどを確認。孤立した植物の一品？	T地 (開発補助事業)
19	水元遺跡 第39次調査	長田区水元通 2・ 3丁目	神戸市体育協会	西洞内沢・ 山口英正 1,076af 1,075af	15.10.09～15.12.26	中世の溝・ピット（30.1・2）、古墳時代後期の孤立柱建石1基（3×5踏以上）・中世の溝など（26-3）を確認。	区画整理
20	松野遺跡 第51次調査	長山区松野町 4丁 目（街区番号31-1 番号3, 4-（6））	神戸市教育委員会	須藤 宏・ 山口英正 70af 70af	15.03.26～15.05.11	部分で「聖白台遺跡と古墳時代の遺物包含層が露出された。	沿岸・工場付付地 (国際競争事業)
21	松野遺跡 第58次調査	須磨区松野町 1丁 目	神戸市体育協会	山口英正・ 阿部敬生 364af 364af	15.05.21～15.10.06	38穴～1～4、遺構・遺物とともに布幕、特別不許の溝・ピットなどを確認。	区画整理
22	若松町遺跡 第5次調査	長田区若松町 4丁 目133番	神戸市教育委員会	石島三和 44af 44af	15.12.04～15.12.10	後発が著しく、遺物包含層を確認したのみ。	個人住宅 (国際競争事業)
23	戎町遺跡 第44次調査	須磨区戎町 1丁 目4	神戸市教育委員会	山口英正 32af 32af	15.04.09～15.06.15	古墳時代中期中腹の方形周溝の溝4条と用意不用意崩し基を確認。	個人住宅 (区画整理事業)
24	戎町遺跡 第45次調査	須磨区戎町 1丁 目4, 28, 35(5-3 番区2-9)	神戸市教育委員会	山口英正 30af 30af	15.04.16～15.04.21	駐車場を伴う唐突造りを確認。古墳不規。	個人住宅 (区画整理事業)
25	戎町遺跡 第46次調査	須磨区戎町 1丁 目4, 6, 7	神戸市教育委員会	山口英正 55af 35af	15.04.23～15.04.28	方形周溝の底の可動性の高い溝状造りを確認。	個人住宅 (区画整理事業)
26	戎町遺跡 第47次調査	須磨区戎町 1丁 目4-1(空地) 神戸 国際貿易振興センター 新取扱事務所 街区番号29	神戸市教育委員会	山口英正 47af 47af	15.05.01～15.05.09	基礎壁を伴う溝8条と耕作痕のない溝1条を確認。	個人住宅 (区画整理事業)
27	戎町遺跡 第55次調査	須磨区戎町 1丁 目4-1(空地) 2番 地6, 7 (区画整理 事務所取扱第一場 外)	神戸市教育委員会	山口英正 20af 20af	15.05.12～15.05.16	既存の建物基礎の復旧調査 J-杭、養生作業。	店舗・工場付付地 (区画整理事業)
28	戎町遺跡 第60次調査	須磨区戎町 1丁 目5-6番地8号	神戸市教育委員会	藤井太郎 55af 55af	15.06.04～15.06.24	古墳時代後期の横穴式石室、古墳時代中期の 方形周溝、多量の土器を含む溝などを確認。	個人住宅 (区画整理事業)
29	戎町遺跡 第59次調査	須磨区戎町 1丁 目4	神戸市体育協会	山口英正・ 藤井太郎・ 中山さやか 391af 391af	15.06.06～16.01.14	第5-1～5-6番地、佐佐母(戎町)の方形周溝の 立派な造りがほぼ判別可能。大きな溝から上位の 区画溝や仲絹造をもつて南北を走らせる。この邊に 整穴式・複合柱建物1号が。	区画整理
30	戎町遺跡 第61次調査	須磨区戎町 1丁 目4, 6, 7, 8 (区 画整理地区 5-5番地)	神戸市教育委員会	中山さやか 86af 86af	15.07.08～15.07.15	古墳時代中期の方形周溝のコーナー部、周溝 を含む遺構を確認。	個人住宅 (区画整理事業)

平成15年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表（復興事業に伴う調査）（3）

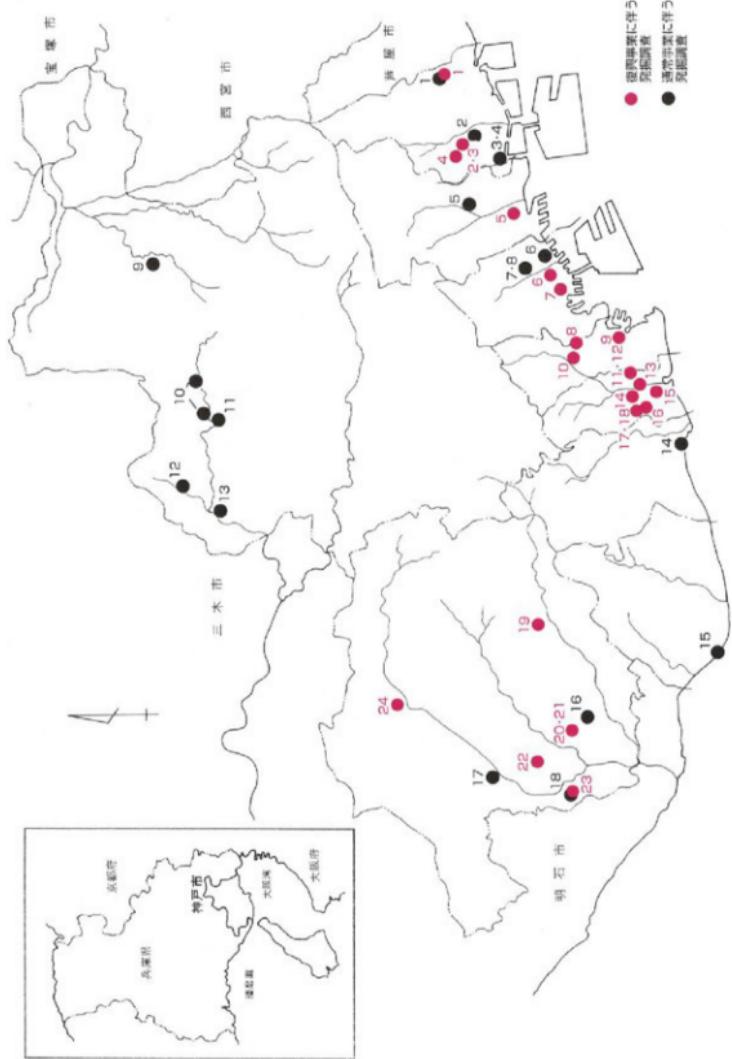
No.	調査名	所在地	調査主体	調査担当者 監視責任者	調査面積	調査期間	調査内容	調査原因
31	波切道路 第55次調査	西原区今田町1丁 目4, 6, 8, 9(復 興地、復原準備 地区) 緯度2号付	神戸市教育委員会	森井太郎	50m ² 30m ²	15.11.18～15.11.27	方形周溝式に伴う土塁、土坑2基を確認。斜 坡地の60%が復旧。	個人住宅 「因幡補助事業」
32	波切道路 第56次調査	西原区今田町1丁 目4	神戸市教育委員会	森井太郎	65m ² 65m ²	16.01.08～16.01.29	弥生時代中期の溝を有する内傾3反の方開 溝墓のはか獨立柱跡1脚、柱穴などを確認。	店舗 「因幡補助事業」
33	波切道路 第57次調査	西原区今田町1丁 目4	神戸市教育委員会	石島三和	35m ² 35m ²	16.02.12～16.02.19	弥生時代中期の方形周溝墓の開墾；渠と竈1個 体が出土する馬1頭を確認。	個人住宅 「因幡補助事業」
34	波切道路 第58次調査	西原区今田町1丁 目3番の部、4番 の一部	神戸市教育委員会	石島三和	80m ² 80m ²	16.03.08～16.03.16	弥生時代中期の方形周溝墓(灰狀土層)・土坑 東字44復原。	店舗・工場付生水 「因幡補助事業」
35	波切道路 第59次調査	西原区今田町1丁 目3番の部、4番 の一部	神戸市教育委員会	石島三和	202m ² 202m ²	15.11.06～15.11.21	複合跡遺証の石垣を初めて確認。木築棧橋の 基礎とソーダ瓦を確認。 【12/17既終了】	共同住宅 「因幡補助事業」
36	舞子駅周辺 第1次調査	垂水区東舞子町 2040-7	神戸市教育委員会	山本雅和・ 石川一郎・ 瀬尾市志	201m ² 201m ²	16.03.08～16.03.24	太山寺創建期に近い様式時代の遺構多密認。	営業建物 「因幡補助事業」
37	太山寺道路 第1次調査	西区伊川谷町前 290番地	神戸市教育委員会	中いさやか	301m ² 201m ²	16.02.23～16.03.31	太山寺創建期に近い様式時代の遺構多密認。	営業建物 「因幡補助事業」
38	水谷道路 第10次調査	西区玉津町水谷1 丁目	神戸市体育協会	谷 正廣	350m ² 550m ²	15.08.29～15.10.17	水道多井4号古墳時代後墳の古3基(3～5号 墳)と中・近世の墓3基を確認。	道路
39	高麗原道路 第1次調査	西区玉津町高麗原 北谷990-10	神戸市教育委員会	森井太郎	1,000m ² 1,000m ²	15.09.08～15.10.20	新発見の遺跡。 古生代後半のせん列区画壁複数組立・工具類遺 物の猪籠などさざなぎな遺物を確認。明確な世相を 反映。	道路
40	今治道路 第10次調査	西区今治町今治本 町650-1	神戸市教育委員会	浅谷誠司	30m ² 30m ²	15.08.11～15.08.19	水道管埋立工部分の石列。古生代後期の 遺物包含を確認。明確な世相なし。	宅地造成 「因幡補助事業」
41	波切山麓道路 第1次調査	西区波切町藤原 185番地21の一部	神戸市教育委員会	浅谷誠司	120m ² 120m ²	15.09.06～15.09.25	新発見の遺跡。時期不明の上杭2基を確認。	個人住宅 「因幡補助事業」
42	出合道路	西区出合町中出字 35番地399番ほか	神戸市教育委員会	丹治幸宏・ 井原 黒・ 鳥・ 立谷 止	100m ² 100m ²	15.08.23～15.09.05	古生代中期の環状住居・柱穴・ピット、漆器 時代の柱穴、直徑の刀身3枚を確認。	個人住宅 「因幡補助事業」
43	岸田道路 第1次調査	西区岸田町四田 字イカヅシ44番地	神戸市教育委員会	酒瀬 宏	36m ² 60m ²	15.03.27～15.06.05	古生代後期～平安時代末の酒・ビットを確認。	個人住宅 「因幡補助事業」
44	琴山古墓地群	西区琴山東字琴 575	神戸市教育委員会	中原えりか	61m ² 61m ²	15.09.16～15.09.19	从葬部分のみ調査。中世後半以前の土坑2基、 第1基、穴径3尺を地図。	個人住宅 「因幡補助事業」

平成15年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表（通常事業に伴う調査）(1)

No.	遺跡名	所在地	調査工作	調査担当者 延べ面積	調査年月	調査内容	歴史研究
1	西明通跡 第2次調査	東灘区森北町3丁 目1番、5番	神戸市教育委員会	中松さやか 845㎡ 642㎡	15.11.19～16.12.16	縄文中期～古墳時代～縄文時代の土坑・埴輪を 含む。	大岡佐毛
2	住吉宮町跡 第3次調査	東灘区住吉町4 丁目2番	神戸市教育委員会	川口さやか 80㎡ 86㎡	15.3.28～15.6.28	葺石を含む小型方墳のコーナー部分と竪穴式 土坑を確認。	学習開
3	住影丘古墳群 第2次調査	兵庫区住影町1 丁目4番、5番 4,491,483,482-1, 482-6,1009-1番、 101-3-10番	神戸市教育委員会	井尻 宏 1,000㎡ 1,400㎡	15.6.09～15.6.26	白物陶瓦・石屋根・瓦葺 近世・近代・洋式の3種の墓壙前を確認。 15×3×3式洋式公開	打合渉外設営改
4	住影丘古墳群 第3次調査	兵庫区住影町1 丁目47番	神戸市教育委員会	浅谷筑部 180㎡ 600㎡	16.08.06～16.03.29	南北山古墳。埴輪面5箇を確認。江戸時代 の壇石・石碑のみが見られ、中崩・後原 の小春、後原～近世の土塁2基・礎・走壁、近 代の大便、廻敷・外堀等。	七姫西成
5	路原通跡 第2次調査	灘区海岸中央2丁 目29-2	神戸市教育委員会	須藤 宏 27㎡ 81㎡	15.05.12～15.05.21	古墳時代初期～古墳時代後期の灰土壙積立基、 汚らしひき・礎、大型の走・土坑を確認。	大岡佐毛
6	日暮通跡 第21次調査	中央区猪崎町3丁 目378	神戸市教育委員会	石島二朗 270㎡ 270㎡	16.01.13～16.02.06	弥生時代後期～古墳時代初期の土坑・7世紀代 の溝・土坑・立ち込みを確認。	共同研究
7	船内通跡 第4次調査	中央区旗津通6丁 目377番	神戸市教育委員会	浅谷筑部・ 月原 康 180㎡ 180㎡	15.09.26～15.13.15	墳物基礎部分と地中受部分についての調査。弥 生時代後期の埴輪壙・土塁・ピット、中世以前 の墓壙前を確認。	共同研究
8	船内通跡 第5次調査	中央区旗津町3丁 目4丁目	神戸市教育委員会	井尻 宏 200㎡ 230㎡	16.04.01～16.05.26	古墳時代初期の溝・立基・埴輪・ピットを確認。 溝・立ち込みなどを確認。	ガス・電気・水道
9	八多・中通跡	北区八多町中上ノ ウタ	神戸市体育協会	谷 玄成 264㎡ 264㎡	15.04.14～15.05.12	縄文時代の溝・坑窓・ピットを確認。	区间整理
10	野播2次調査 第2次調査	北区淡河町野播	神戸市体育協会	井原敬生 635㎡ 630㎡	15.07.18～16.03.03	近世の土坑・ピット（2-1）、中戸の土壙・ピッ ト（2-3）、縄文時代の土坑・ピット・立ち込み	施場危険
11	野播2次調査 第2次調査	北区淡河町野播	神戸市教育委員会	井原敬生 50㎡ 50㎡	16.01.19～16.01.30	圃場に伴う盛土のうを確認。	圃場整備
12	野播通跡 第4次調査	北区淡河町野播 南側	神戸市教育委員会	山口英正・ 阿部敬生 900㎡ 900㎡	16.03.06～16.03.25	平安時代後期の溝・立基・溝・土面達構1基・ 木指基1基、火葬土塁2基などを確認。	圃場整備
13	野播通跡	北区淡河町野播	神戸市教育委員会	山口英正 600㎡ 600㎡	16.03.01～16.03.08	南面築堤の築基と規範約10mの除去作業のう を確認。	正準備用
14	西北通跡 第3次調査	北区淡河町野播 西北	神戸市体育協会	野瀬圭生 600㎡ 600㎡	15.11.04～15.12.25	縄文～古墳時代の溝・溝・土坑4基・立ち込み・ ピットなどを確認。	圃場整備
15	淡河跡 第2次調査	北区淡河町野播	神戸市教育委員会	横田浩季・ 山本隆和 30㎡ 30㎡	16.03.23～16.03.26	耕作地跡を確認。丸い土壙がふく「コ」字形に めぐらしていたことが確認。	耕作地跡（未）

平成15年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表（通常事業に伴う調査）（2）

件 号	遺跡名	所在地	調査上作	調査担当者	調査面積	調査期間	調査内容	調査原因
16	白石町遺跡 第4次調査	須磨×白石町3丁目	神戸市立体育協会	谷 正俊・ 森谷真也	1,063㎡ 1,063㎡	15.08.12～16.03.31	奈良時代の大溝・築食・室町時代の鄧小溝（4-1）、奈良時代の火炎・室町～明治時代の柱穴・竈門・窓・大塙塗（4-2）、飛鳥時代の大溝（水口）・J草状痕跡・ピット、《4-3》などを確認。	調査
17	舞子町跡 第2次調査	灘水×東阿子町 2061	神戸市教育委員会	山本雅和・ 鶴見治季	36㎡ 36㎡	15.11.17～15.12.26	砲台の裏の複式式造台公園の中の丸角と土塁、人頭から軸を確認。1層部の1面頂は約6mで、高さ差定6cm。	公費整備 (医療施設事業)
18	舞子町跡 第3次調査	灘水×東阿子町 2061	神戸市教育委員会	須藤 宏	250㎡ 250㎡	15.02.03～15.03.29	砲台要員住舎を確認。今後約20mのW字形の複式造台と確認。瓦被蓋瓦類の例も確認。 【3-1】瓦被蓋瓦類調査】	遺跡整備 (医療施設事業)
19	白八孫原古墳 第10次調査	西×伊丹谷町周辺 アントン山	神戸市教育委員会	山田英玉・ 中村さやか	60㎡ 60㎡	15.06.23～15.10.09	後円部埋作道路の測量。騎士像の構築方法・副葬品の配筋状況を充実に確認。 【9-6 調査成員会等】	遺跡整備 (医療施設事業)
20	西芦山跡	西区・西芦山・芦屋川 字通日	神戸市教育委員会	井原 隆・ 中村さやか	160㎡ 160㎡	16.01.29～16.02.25	平安時期～鎌倉初期の柱穴・ピット・窓などを確認。	調査
21	出台遺跡（上津 橋地区）	西区・剪切中津半 島ノ上・堂ノ上、 門山	神戸市教育委員会	山本・ 吉原・ 鶴見・ 中原	352㎡ 352㎡	15.09.15～15.02.20	莫比出益海に伴う試掘調査。ほぼ全域で、建 物・遺物を確認。	開城監査 (医療施設事業)
22	袖・荒出街跡	中央区剪切丁目	兵庫県教育委員会	古墳群前・ 古墳山下・ 別所作下・ 平田作下	794㎡ n/a	15.06.10～1a.09.30 15.10.16～15.12.17	北地区の調査では平安時代末の聚落遺跡と土 器遺物を主に検出。後期は中世の武家移り跡にみ られる様と確認。また南地区の新食は、 平安時代末期の2つの分を検出した。跡地には 古墳時代の土器が検出されたことから、該遺跡の跡地が 出土した。	実験施設
23	古山南遺跡	西区玉山町四丁目	兵庫県教育委員会	堀 義紀・ 久保弘子	480㎡ n/a	15.08.18～15.10.16	奈良時代末～平安時代初期の壁・柱穴6枚・匯 合柱直径2.7尺、実柱行造塗の窓・「柱・中野」 の施作・埴輪瓦なども検出した。出土遺物で は、寺の境内へ希留式の古式土器類のほか金 銀器類を含むなど、貴重な出土品が 出土した。	人蔵施設
24	邦家美修	東灘区御影竹御影 字城ノ町1458番外	同上	菅原政人	900㎡ 900㎡	15.06.16～15.08.13	奈良時代早期の底盤・瓦瓦砾・刻文柱管脚・ ピット・中期代後期の船形・《クシ》・扇形七孔・ 圓錐・窓・柱・柱ワッフル遺物・ピット、縫隙時代のピッ トなどを確認。 【8-9統合造成全閉鎖】	共同住宅
25	邦家塗跡	東灘区御影小町4 丁目1241	村尾茂人	岡田 駒	1,550㎡ n/a	16.03.01～16.06.30	古墳時代の壁穴跡・柱穴跡・窓・ニチュア 土器と滑石型模造品の鉄紅漆塗を検出。	共同住宅



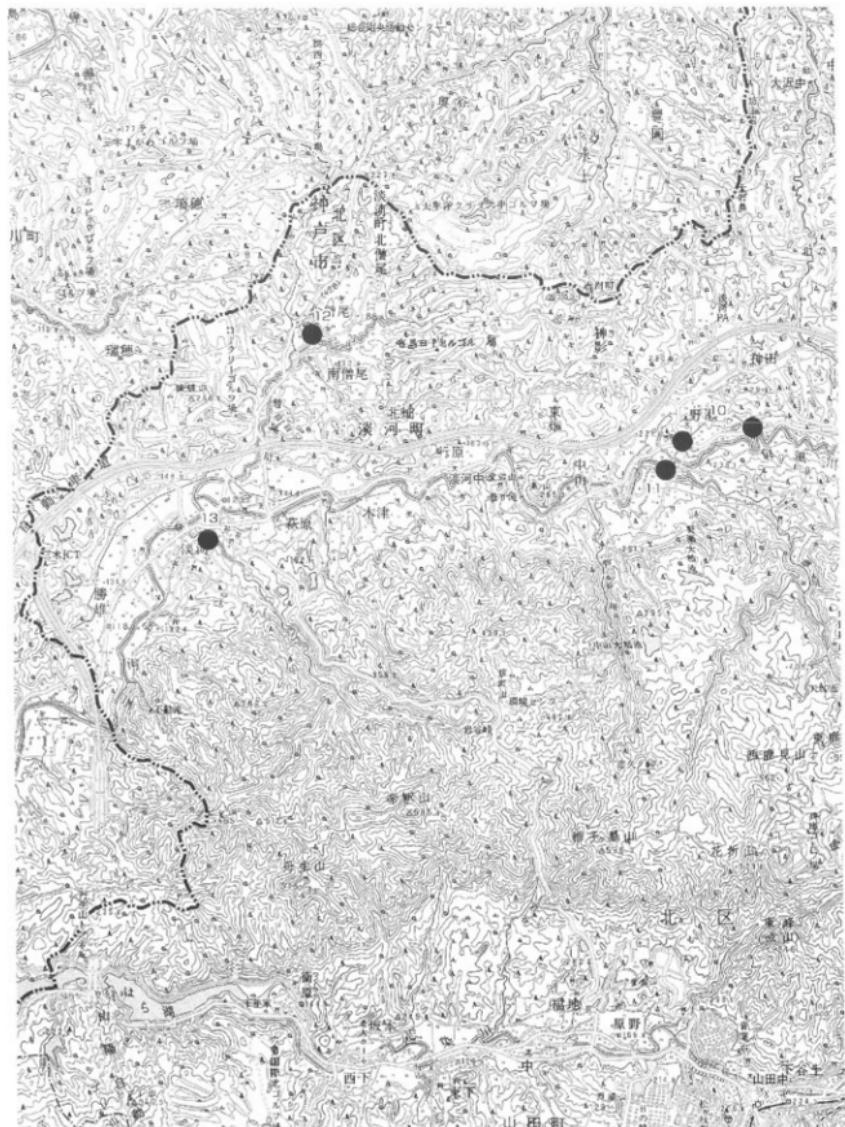
平成15年度 神戸市埋蔵文化財調査位置図
(各遺跡の番号は掲載遺跡と一致)



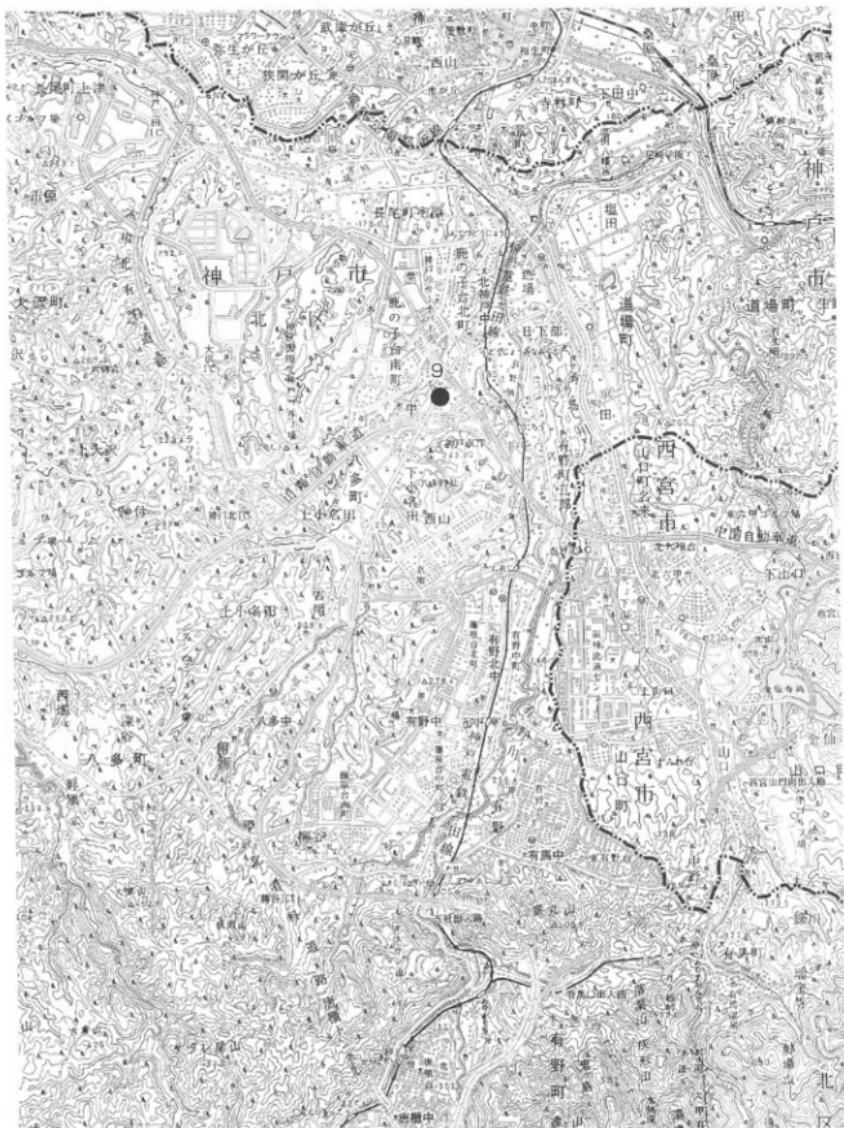
調査地点位置図 1

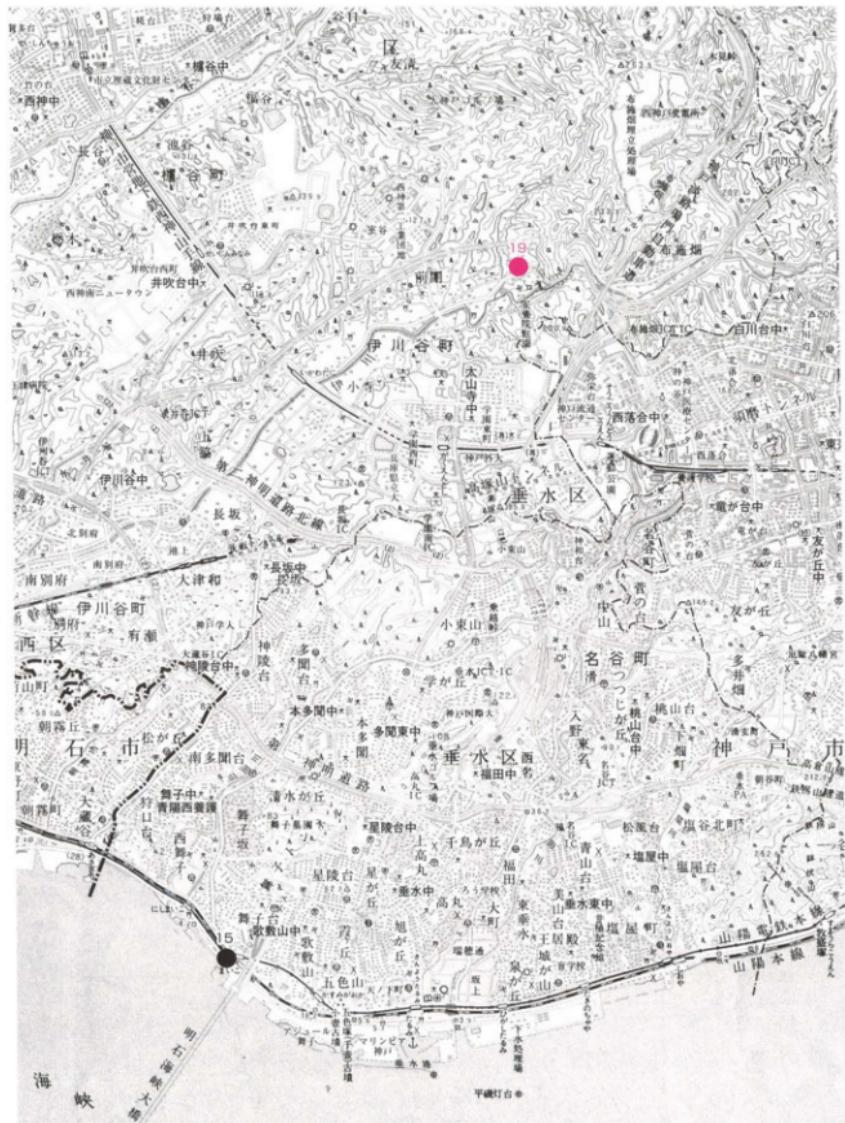


調査地点位置図 2

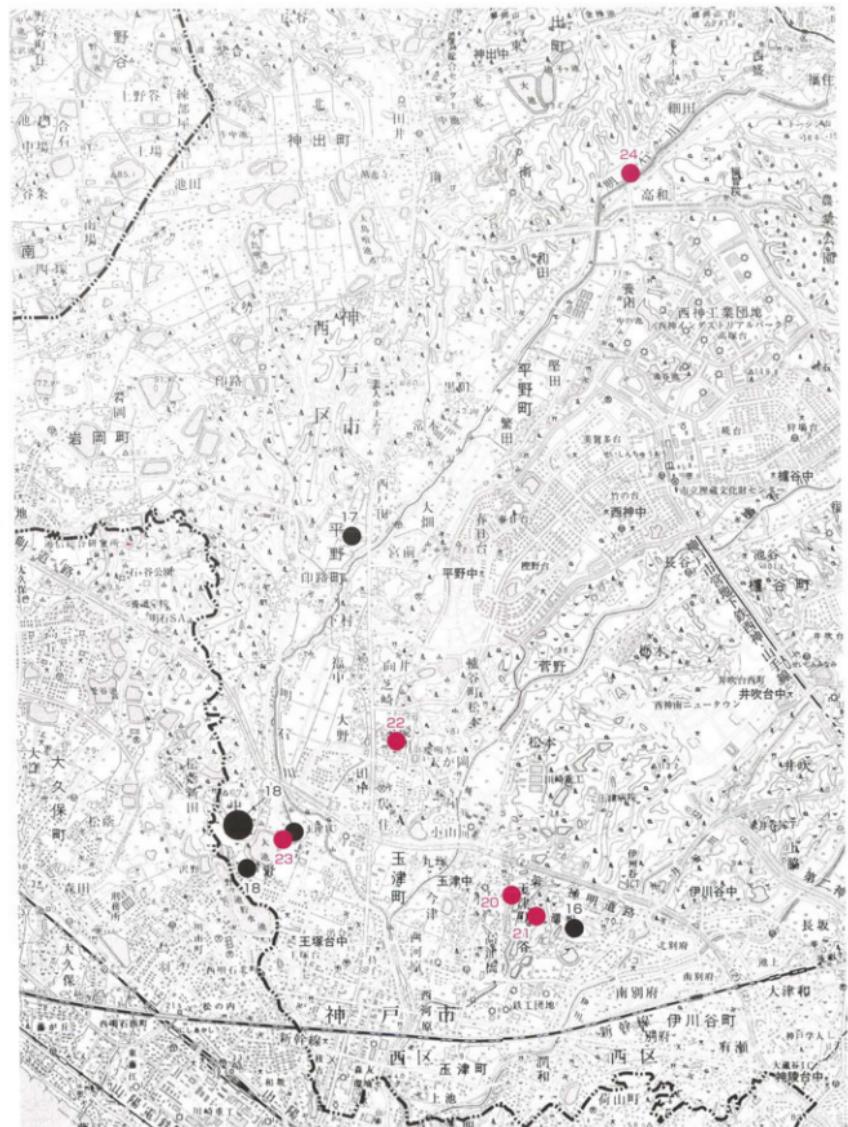


調査地点位置図 3





調査地点位置図 5



調査地点位置図 6

II. 平成15年度の復興事業に伴う発掘調査

1. 森南町遺跡 第2次調査

1. はじめに

森南町遺跡は、神戸市の東端部に近い森南町2丁目に所在する縄文時代から江戸時代に及ぶ遺跡である。JR神戸線の甲南山手駅の南西に位置し、古くから集落が営まれている地域である。遺跡は、六甲山南麓に広がる扇状地上に立地しており、標高約13.5mである。調査区の西端には、南流する宮川があり、現状では西に向かって下がる地形を示している。

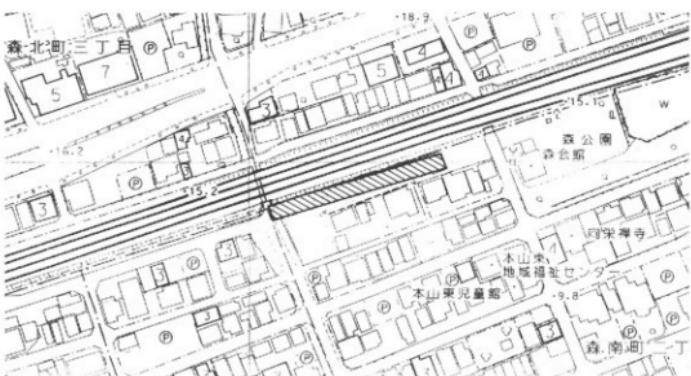


fig.14
調査地位置図
1:2,500

2. 調査の概要

今回の調査は当該地に計画された土地区画整理事業に伴うものである。前年度の調査に引き続き計画道路部分について調査を実施した。

綱文時代

IV区の遺構面ベース土には縄文土器の細片が含まれる。一部を面的に掘り下げた結果、遺構等は検出されず、弥生時代以降の遺構面ベース土が形成される過程で含まれたものと判断される。

自然流路

V区東端で南北方向の自然流路が検出され縄文土器の細片が出土した。流路からの遺物は極めて少なく所属時期を確定するには資料不足であるが、縄文時代に属する可能性もある。

弥生時代～

古墳時代

IV区中央部には、厚さ約10cmの黒色の遺物包含層があり、それを除去すると20基弱のビットが検出された。ビット内からの遺物はなく時期を決定し難いが、中期と考えられる壺体部などが勾欄から出土しており、弥生時代中期に属する可能性がある。

S D 02

I・III・IV区を蛇行して流れる幅約3mの溝状造構が検出された。この造構は、昨年度調査したII区で検出した溝状造構の西側延長部分で、東西両端と中央部が調査区外となるが、検出長は今回の57mと合わせて約76mを測る。古墳時代初頭（庄内期）に所属すると考えられる。

竪町時代～

石組井戸、集石土坑、凹形土坑などが検出された。

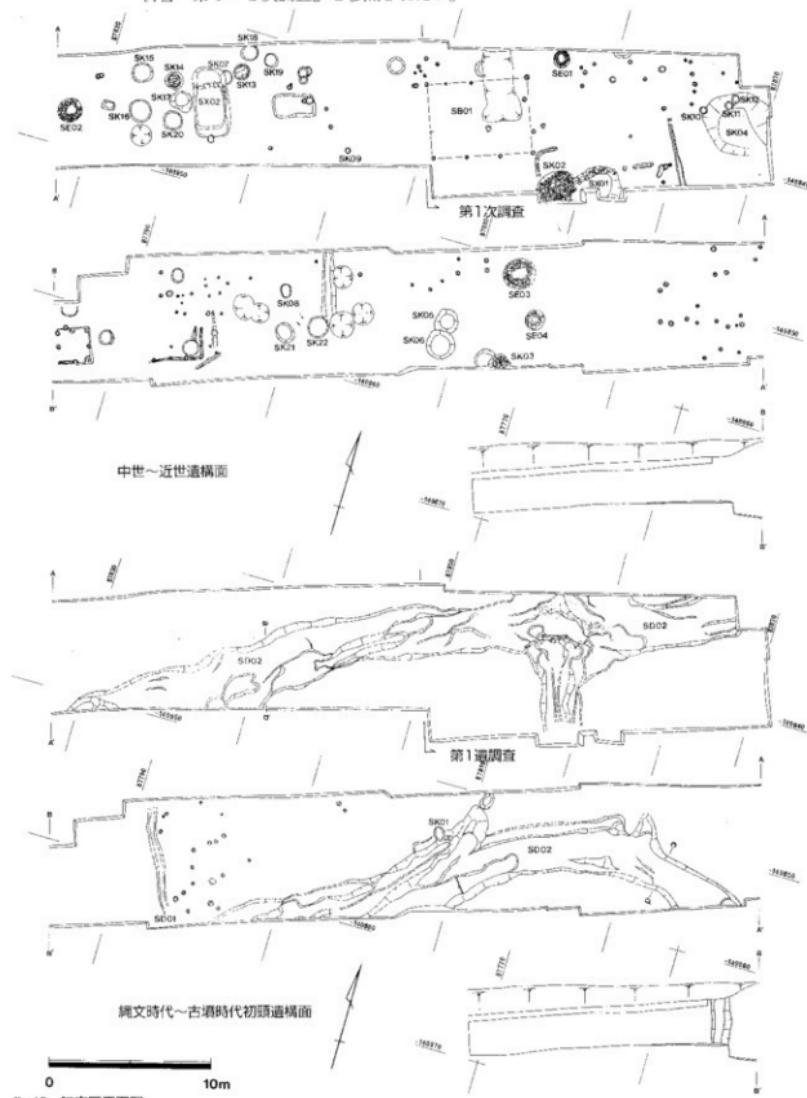
江戸時代

S E02・03は、出土遺物からそれぞれ15世紀後半から16世紀後半、15世紀末から16世紀中頃にかけて使用されたものと思われる。またS E04については、出土遺物がなく時期を

確定できないが、水溜に曲物を設置しており他の2基よりやや古い可能性がある。

3. まとめ 森南町遺跡は、今回の発掘調査でその存在・内容が始めて明らかになった遺跡である。

なお第1および2次調査の詳細については、平成17年3月刊行の『森南町遺跡発掘調査報告書 第1・2次調査』を参照されたい。



2. 郡家遺跡 第73次調査

1. はじめに

郡家遺跡は、住吉川、芦屋川、天神川等に形成された扇状地に存在する弥生後期から中世、江戸時代にまでいたる複合遺跡である。

今回、調査の実施された堂ノ裏地区は、今まで本格的な調査事例がなく、周囲の状況は不明である。



2. 調査の概要

調査後に行われる工事の関係から、すでに遺物包含層より上層の土層はすべて掘削され、確認できなかった。

基本層序

基本層序は、黒灰色砂質土（弥生後期・古墳時代後期遺物包含層）、淡褐色砂質土（上面が遺構面、弥生土器含む）、暗褐色砂質土（無遺物）、淡褐色砂質土（無遺物）と続く。

遺構と遺物

淡褐色砂質土遺構面から、弥生後期～古墳時代後期までの竪穴住居、土坑、流路、ピットが確認されている。

S B01

幅約5.6×3.9mを測る方形の竪穴住居である。工事の影響深度の関係で床面まで完掘せず南北方向のトレッチ掘削により床面を確認している。その結果によると、深さ約42cmを測る。周壁溝も確認されている。周壁溝は幅約15～20cmで、深さ約13cmを測る。

床面まで掘削していないため竪穴住居の時期の決定に欠けるが上層からは、古墳時代後期の須恵器と土師器や弥生後期の土器が出土している。弥生後期か古墳時代後期の竪穴住居である可能性が高い。

S R01

調査区の西端で検出した流路である。幅約1.2～3.0m以上を測る。深さ約20cm～50cmまで調査したが、工事の影響深度の関係で底面まで掘削していないため、深さは不明である。

出土遺物を確認すると、最終埋没堆積には古墳時代後期の須恵器と土師器が多く確認されているが、その下層からは弥生後期の土器溜りが確認されている。流路の最終埋没時期は古墳時代後期であるが、流路の本体は弥生時代後期から周囲を流れていたようである。

土器窯

S R01の東肩で検出した、弥生後期の上器窯である。東西約3.5m×南北約1.5mの範囲で上器を検出している。復元できた個体は、壺7個体、鉢16個体、壺1個体である。

このうち壺については、少數の破片を図上復元したものの、S R01から流れ着いた可能性も持つ。壺と鉢については、明らかに S R01の肩に投棄された遺物と考えられる。

土器の器種構成を見ると、高杯が確認されておらず、壺についても極めて少數であり、鉢の個体数が突出している。器種構成が偏っており、流路の肩で何らかの祭祀に使用された可能性も考えられるが、確實に投棄された土器の中では、一般的に祭祀で使用される確率の高い高杯を確認しておらず、不明である。集落で日常的に使用した土器を投棄した可能性も存在する。

- S K01 調査区の北端で検出された。幅約45×60cmで深さ約14cmを測る、不整円形の土坑である。淡黒灰色砂質土が堆積している。遺物は出土していない。
- S K02 調査区の南西端で検出された。幅約30cmで深さ約13cmを測る、不整円形の土坑である。淡黒灰色砂質土が堆積している。遺物は出土していない。
- S K03 調査区の南西端で検出された。幅約90cmで深さ約15cmを測る、不整円形の土坑である。淡黒灰色砂質土が堆積している。弥生土器の小片が出土している。
- S K04 調査区の南半中央で検出された。幅約50cm×40cmで深さ約15cmを測る、不整円形の土坑である。淡黒灰色砂質土が堆積している。遺物は出土していない。
- S K05 調査区の南西端で検出された。幅約90cm×40cmで深さ約30cmを測る、不整円形の土坑である。褐色砂質土が堆積している。遺物は出土していない。
- S K06 調査区の南西端で検出された。幅約60cmで深さ約21cmを測る不整円形の土坑である。

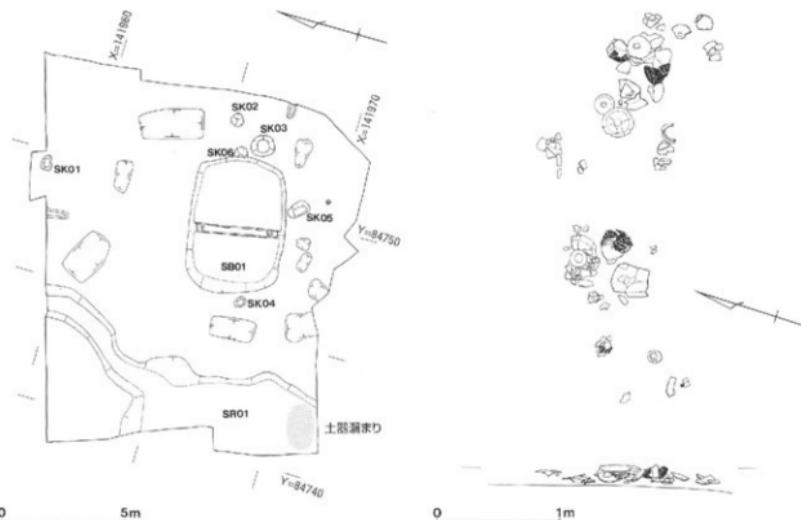


fig.17 調査区平面図

fig.18 土器窯平面図・立面図



fig.19
調査区全景



fig.20
土器割り

西半をS B01に削平されている。淡黒灰色砂質土が堆積し、弥生土器の小片が出土している。

3. ま と め

今回の調査結果では、堅穴住居が検出された事実がまず挙げられる。床面まで掘削できず、時期的には弥生後期と古墳時代後期のどちらに属するか判断できていないが、周間に集落の存在する事は明らかである。

弥生後期には土坑が確認されている他、流路の肩付近で土器割りも確認されており、集落の存在する事はほぼ確実であろう。古墳時代後期には確実な遺構は流路しか検出していない。ただし、遺物包含層からの出土は弥生後期土器よりも古墳時代後期の須恵器や土師器の方が圧倒的に多い。周間に古墳時代後期の集落が存在する可能性も考えられる。

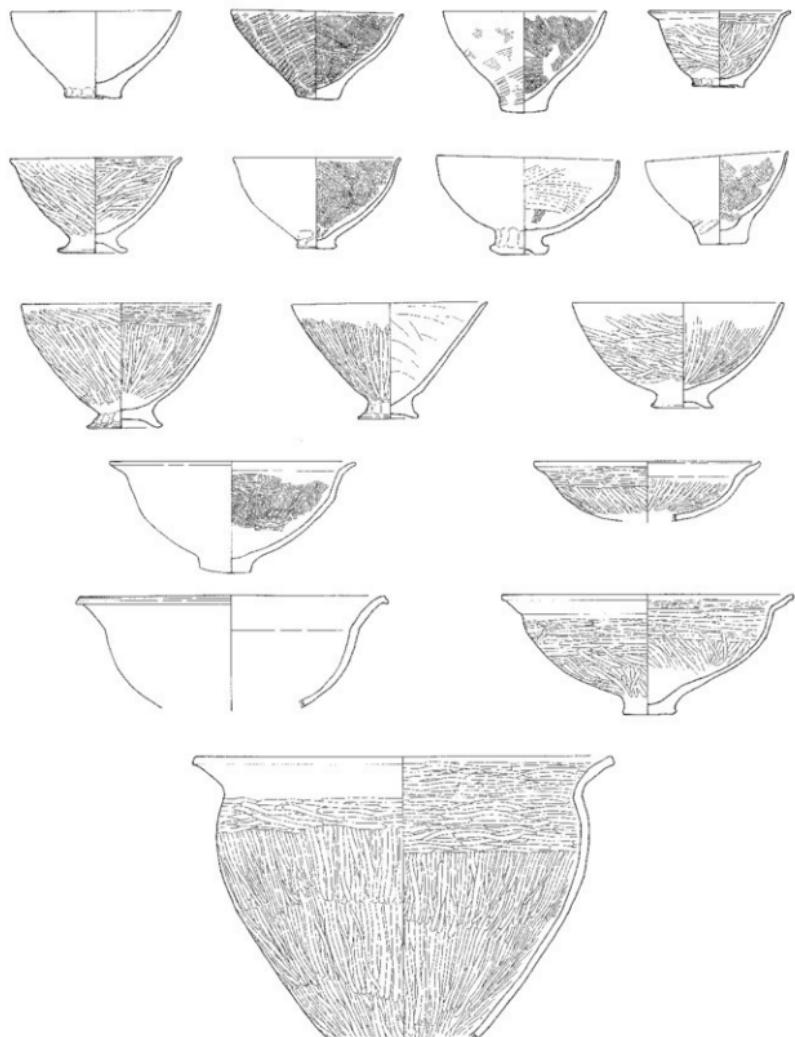


fig.21 出土遺物実測図（1）〔土器画り〕

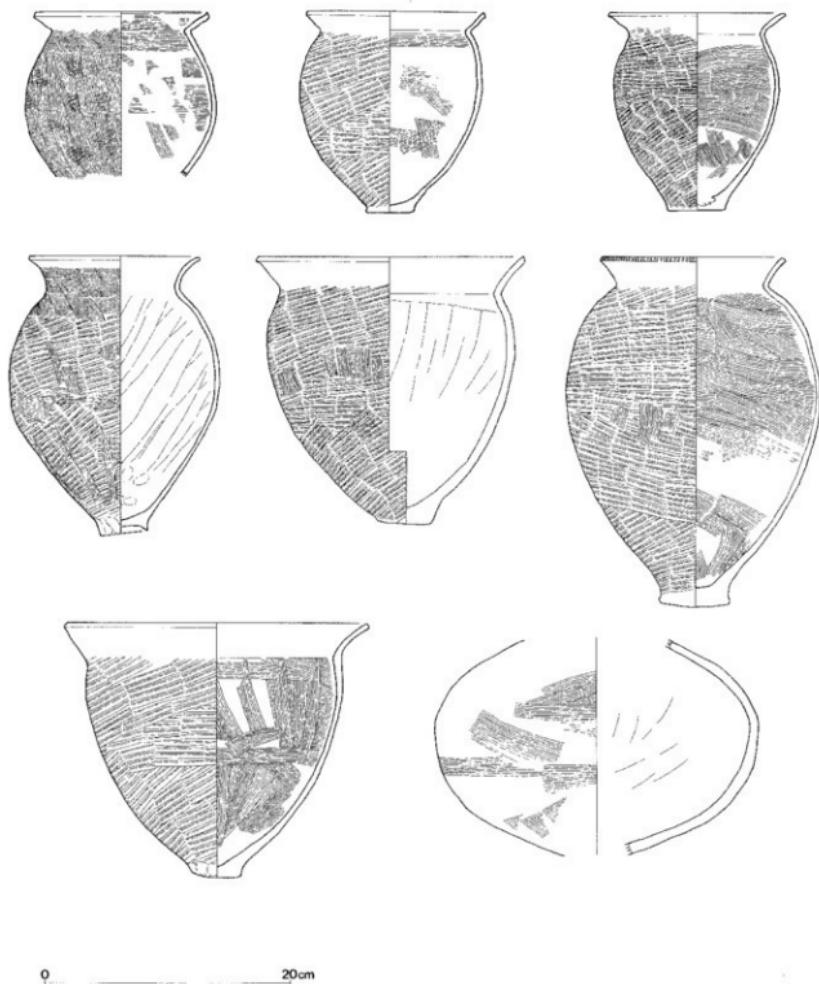


fig.22 出土遺物実測図（2）（土器断片）



fig.23 出土遺物〔土器類〕

1. はじめに

郡家遺跡は東灘区の西端部、六甲山麓の南側、石屋川と住吉川によって形成された扇状地に占地し、標高13~40mの複合扇状地上に立地する弥生時代~中世の複合遺跡である。その範囲は広く、東西約800m、南北約500mにわたっている。過去の多くの調査において多くの遺構が確認されている。大蔵地区では奈良時代の大型の掘方をもつ掘立柱建物が検出され、付近に官衙的建物の存在が指摘されている。この辺りは「菟原郡衙」の推定地として知られている。

fig.24
調査位置図
1:2,500



2. 調査の概要

層序は、上層より盛土、耕土、旧耕土である淡灰色砂質土・淡灰褐色砂質土、遺物包含層である褐灰色砂質シルト・暗褐灰色シルト、そして遺構面である黄灰褐色細砂質シルトとなる。

検出遺構 遺構面は2面確認している。第1遺構面で流路1条、第2遺構面で溝2条、土坑2基、ピットを検出した。

第1遺構面 遺物包含層である褐灰色砂質シルト層を除去すると、道路面から約10cmの深さで第1遺構面である暗褐灰色シルト層となる。

S D101 調査区の北側で東西方向の流路1条検出した。調査区が限定されているため規模を把握できないが、幅7m以上になる。深さは工事影響深度の関係もあって70cmまでしか確認できていない。灰色粗砂からは古墳時代後期の須恵器が出土している。下層の灰色粗砂の堆積した後、中位ぐらいで安定したシルト層の堆積となる。この層位で6世紀前半の須恵器の完形品が3個体出土した。祭祀が行われた可能性が考えられる。

S X101 調査区南半の西側で検出した不定形の遺構であり、性格は不明である。深さは10~30cmで一定していない。埋土は灰色砂で遺物の出土はなかった。

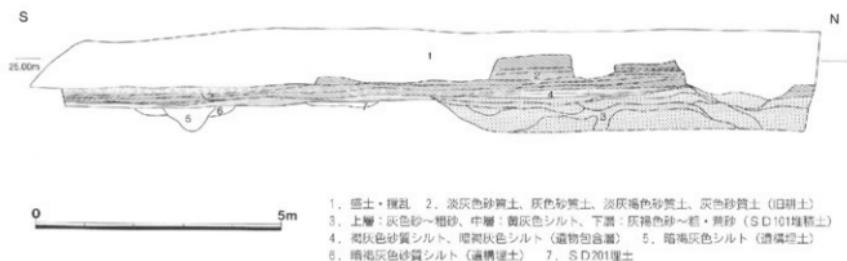
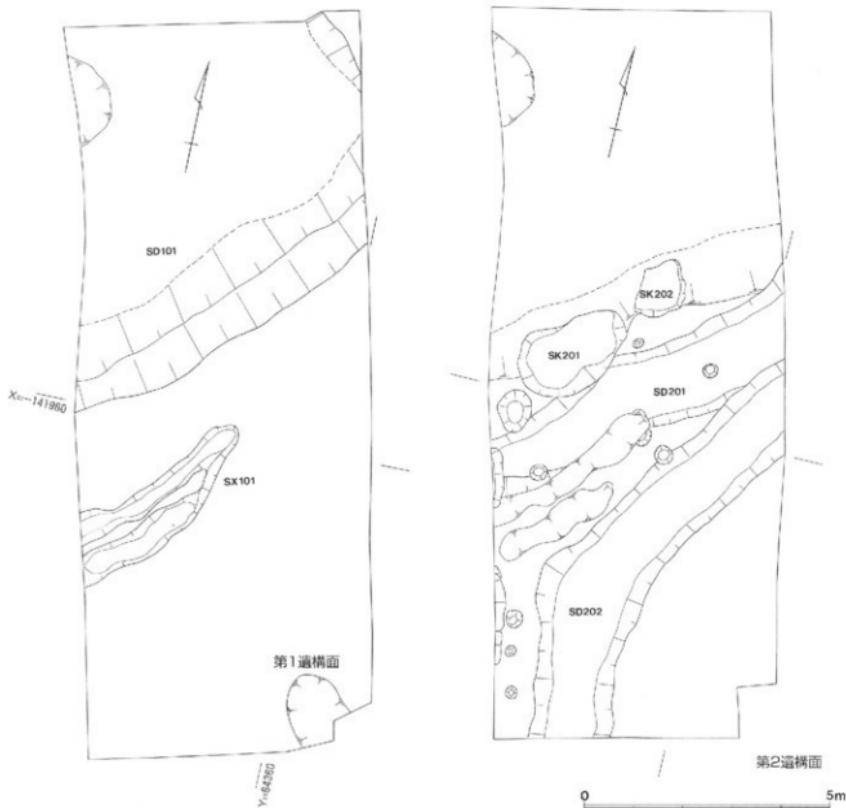


fig.25 調査区平面図・断面図

第2遺構面 暗褐灰色シルト層の遺物包含層を10cm程下げる第2遺構面になる。

S D201 調査区の中央で検出した東西方向の溝である。幅約1.2m、深さ5~7cmと浅い。遺物が出土していないため時期については判らない。

S D202 S D201の南側で検出した東から南方向に流れる溝である。幅約1.2~1.4m、深さ7~10cmである。この溝も遺物が出土していないので時期については判らない。



fig.26
第1遺構面全景



fig.27
第2遺構面全景

S K201 S D101の肩部付近で検出された楕円形の土坑である。長径2.4m、短径1.4m、深さ約50cmである。S D101によって大半が削平を受けている。土坑内からは土師器の細片が出土した。隣で検出されたS K202についても同様に削平を受けているものと考えられる。

3. まとめ 今回の調査地は、平成5年度に実施された篠ノ坪地区第9次調査東隣である。その時の調査でも流路を確認しているため、その続きであると考えられる。この流路の底部まで調査を行っていないため、いつの時期に形成されたのか判らないが、西隣の調査では古墳時代前期の遺物が出土したと報告している。ただし、中位ぐらいで古墳時代後期の須恵器が置かれている状態で出土したため、この時期の集落が近隣にある可能性が考えられる。第2造構面でも溝、土坑、ピットを検出しているが、遺構内からの出土が少なく、遺物包含層からの出土も僅かであるため時期の決定に欠けるが、近隣の調査成果を考慮すると古墳時代の範疇に収まると考えてよいと思う。

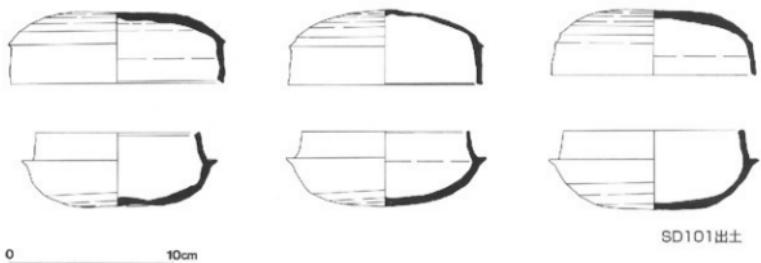


fig.28 出土遺物実測図



fig.29
出土遺物

4. 郡家遺跡 第75次調査

1. はじめに

郡家遺跡は六甲山の南麓、石屋川左岸の沖積地に位置する。郡家という地名から古代の摂津国菟原郡衙がここに置かれていたものと推測される。1979年から始められた発掘調査により郡衙に関連すると思われる律令期の建物・井戸などのほか、弥生時代から近世に至るまでの遺構・遺物が確認されている。

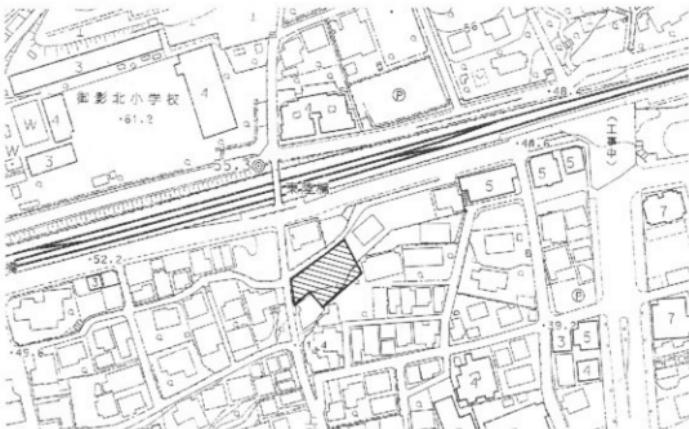


fig.30
調査地位図図
1:2,500

2. 調査の概要

区画整理事業にともなう工事により遺跡の破壊される部分について発掘調査を行なった。調査地は丘陵斜面から平地への変換点にある。

1区では工事影響範囲内において2面の遺構面を確認した。

第1遺構面となる2b層上面では、柱穴や不整形な落ち込みが検出された。出土遺物からすると中世の遺構面になると思われる。調査区の山側では2b層の直下が弥生時代末の土器を多量に含む5a層となるが、平地側ではこの間に少なくとも2枚の表土層の存在することが確認されており、平地側には両層の間にさらに遺構面が存在すると思われる。

5b層上面の第2遺構面では、浅い土坑・溝が確認されたに止まるが、これに対応する表土層5a層からは弥生時代末の土器が多量に出土している。

2区・3区では試掘調査を行い、遺物包含層また遺構面の状況について確認を行った。丘陵上の2区では古い石垣が検出され、この丘陵斜面が古く段造成されていることが確認できた。2区トレッチを設定した現況の平坦面は比較的最近に造成されたものと推測される。

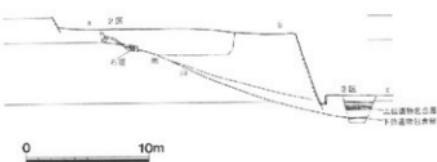


fig.31 2区・3区断面図

3区では、地表レベル約10.5mに対して、上層で標高9.5m、下層で9.0m、2面の土壤化層が確認されている。上層からは中世?の土器、また造構の存在が確認されている。下層では遺物の出土が確認されなかったが、造構面となる可能性があるだろう。

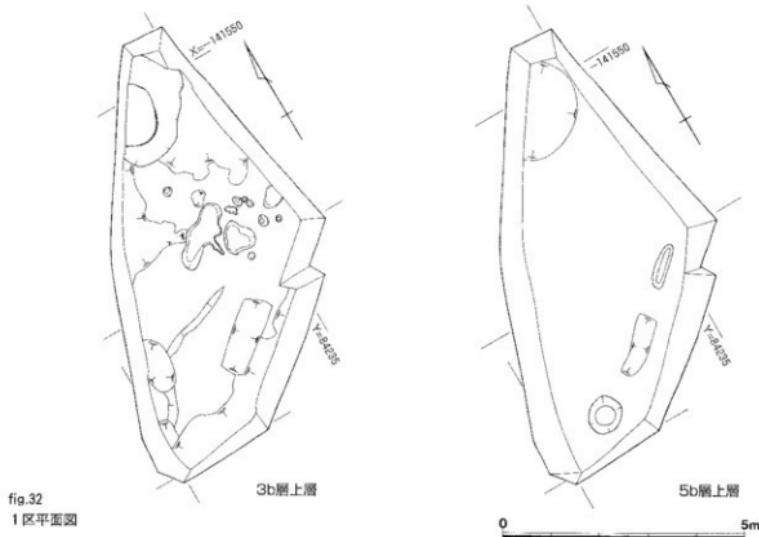


fig.32
1区平面図

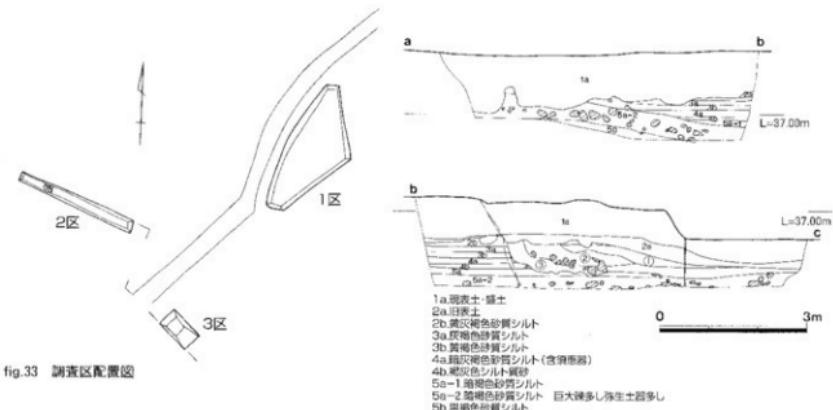


fig.33 調査区配置図

5. 西求女塚古墳 第14次調査

1. はじめに

現在の神戸市街がひろがる六甲山南面の平野部は六甲山系を供給源とする複合扇状地が発達しており、西求女塚古墳はこの扇状地末端、標高約6mの微高地上に築造されている。

当地は旧揖津郡菟原郡の西部にあたり、西約600mには式内社である敏馬神社が所在する。この神社の鎮座する高台は往時敏馬の崎とよばれる岬で、その周辺、西は脇浜から東は味泥の一帯にかけては敏馬の浦あるいは敏馬の泊とよばれ、明石大門（海峡）を通過するための風待ち港として利用されていた。延喜式には「敏馬崎」として記載され、ここで新羅からの使節を生田社で醸造した神酒で供應すると記載されている。

敏馬神社の東にも小規模な入江が存在するほか、西求女塚古墳の西にも觀音寺川と西郷川の流入する入江があり、この入江の沼沢地化したものが味泥（古くは深泥）という地名の起源になったとされている。かつての敏馬の浦は風光明媚なことで知られ、『万葉集』をはじめ、多くの文学作品に題材として取り上げられている。西求女塚古墳も東求女塚古墳・処女塚古墳とともに、菟原処女伝説の遺跡として『万葉集』・『大和物語』・謡曲『求女塚』などの題材にとりあげられている。

今回の調査地は、海岸線に沿って東に前方部を向けるこの前方後方墳の北に接する道路を挟んだ隣接地にあたる。

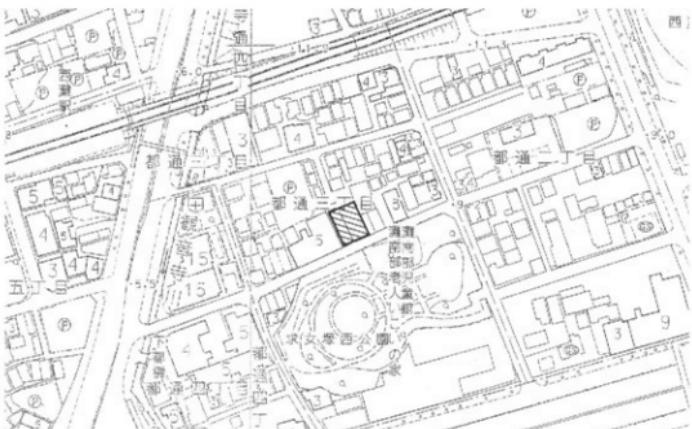


fig.35
調査地位図
1:2,500

2. 調査の概要

調査区の中央南寄りにプラン約7×2mの防空壕が存在し、大きく搅乱を受ける。調査の結果、2枚の遺構面を検出した。以下概要について記述する。

第1遺構面

古墳の周隙あるいはその痕跡と考えられる浅く広い落ち込み（S X03）が埋没した段階の遺構面で中世の遺構面になると思われる。検出された遺構は広く浅い落ち込み（S X01）と溝（S D01・02）等がある。

第2遺構面

S X01の埋土を除去した段階で検出される遺構面である。多数の柱穴・土坑のほか掘立

柱建物1・集石遺構1などが検出された。

S X03

古墳の周隙あるいはその痕跡と考えられる浅く広い落ち込みである。底面には鋤溝が残り、周隙の掘り込みにみえるこの段は、耕作地の段でもあることが確認された。この浅い落ち込みは現状での段差が10cm程度のごく浅いもので、底面の標高は8.0~8.1mをはかる。

比較的大型の柱穴掘形を持つ掘立柱建物S B01はS X03と切り合い関係にあるが、その柱穴は北辺および西辺列を残すのみで他辺は削平を受けて遺存していない。この状況からみて調査地付近はかなりの削平があったものと推測される。

また底部穿孔土器の出土には偏在が認められる。このことはこの段が古い周隙の立ち上がりを踏襲したである可能性のあることを示すものかもしれない。土器片の出土は墳丘側に多く、離れるに従い少なくなるという状況が考えられるが、今回の調査地ではかえって墳丘に遠いところに偏在するという状況が確認されている。過去の調査において確認された周隙の立ち上がりと推測した段が墳丘の主軸に合致していることと考え合わせ、この出土状況の偏在ということに重きをわけ、出土した壺は周隙の外縁に掘られたものが周隙内に転落したものであって、ほぼ周隙の底面まで古墳北側の土地の削平が行われた際に陸底がわずかに残り、そこに遺物が遺存したと推測することができるかもしれない。

出土した底部穿孔土器は、壺形土器のみで、一個体として原形を復元できるものはないが、口縁部を欠くものの、その他の部分については部品としてはほぼそろっており、その形状を復元できる。外反する口縁部から続く胴肩部には円形の竹管文を3段あるいは4段に廻らせ、竹管文の下、胴部の最大径部の少し上には径約10mmの円形の穿孔が竹管文と同様の間隔で廻らされている。直線的にすばまる胴部下半はやや広めの平底部につながり、ここには大きめの穿孔が焼成前に施される。赤彩は外面全体に施される。以上が標準的な

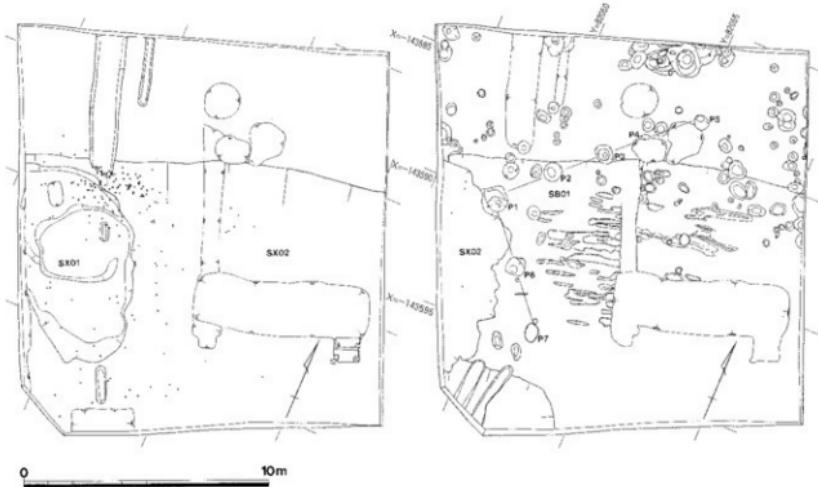


fig.36 調査区平面図

様相であるが、これとは別に胴肩部に線刻による幾何学的な図像の描かれるもの（fig.43～47）も存在する。周隙から出土した底部穿孔土器の破片を寄せ集め復元したものがfig.39である。

S X02 S X03の底面を掘り込む不整形の広く浅い落ち込みである。底面に径2～30cmの花崗岩を主体とする円礫が面的に敷かれる。第6次調査においても周隙部分で石敷き部が確認されている。両者は関連するものであろうか。この礫群には、埋土中に含まれ、明らかにこの掘り込みに置かれたものと認められるものがある一方、ほぼ同レベルの基盤層に同様の礫群が存在することも確認され、両者の判別に苦しむ部分があった。上層同様底部穿孔土器等が少量出土した。ただ、プラン的にはS X01と重なる部分が多く、あるいは同一の遺構になる可能性も否定しきれない。そうであれば、S X02の埋没がある程度進んだ段階で掘り込まれた遺構ということになる。

S B01 東西4間（7.4m）あるいはそれ以上×南北3間（4.6m）以上の掘立柱建物。掘形プラン隅円方形の柱穴は一辺60cmほどと比較的大型のものであるが削平が著しく、遺存する遺構の深さは一番残りのよいP5で25cm、ほかは5～10cmである。東辺・南辺は全く柱穴が残らない。P1から底部穿孔土器が出土したのみで遺物からこの建物の時代を判断することはできないが、柱穴の形状からすると古代のものである可能性が高い。

土坑・柱穴 多数の柱穴のほか、径1mを超えるような土坑も數基確認されている。土器の小片をわずかに含むというようなものがほとんどだが、SP61からは平安時代末の瓦器小皿が出土している。



fig.37 第1遺構面全景



fig.38 第2遺構面全景

3. ま と め S B01の状況等から西求女塚古墳の北側隣接地はレベルで50cm以上と大きく削平されていることが明らかとなった。このことにより、これまでの調査、そして今回の調査で確認された浅い周陥が本来深いものであったことを推測できることは第一に挙げるべき調査成果である。

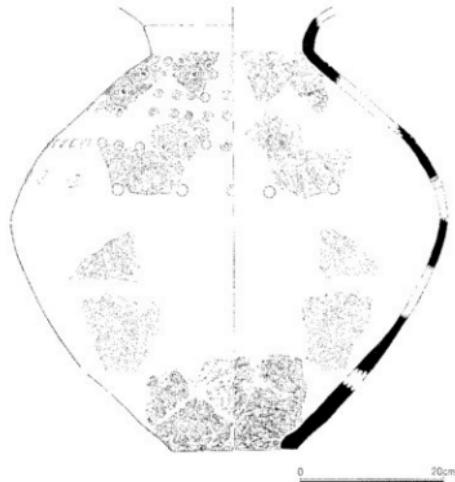
古墳盛土には黒色土が多く見られるのにもかかわらず、周辺の発掘調査ではその供給源となる土層が認められないこともこの削平によるものと理解できる。古い表土層とともに周陥さらに他の多くの造構も消失したものと推定される。

西求女塚古墳の北に接し東西行する道路は、古代山陽道のルートに重なると推定されており、他の地区で確認される地形の痕跡からその幅員は約15mに復元されている。S B01のP7は西求女塚古墳の後方部頃から18mの地点にあたり、山陽道のルートおよび道路幅の推定が正しければ、ほぼ山陽道に北面してこの建物が存在した可能性が高い。一方、これまでの調査で側溝等の造構の検出されていなかった理由、また、今回の調査区の西にあたる第8次調査においては造構がほとんど検出されなかった理由についても、この削平によるためであるためであると推定できるだろう。第8次調査地については、港という性格からすれば、そこにはヤード的な造構の検出されない部分の存在が想定され、一概には判断できないが、造構が検出されなかったことはこういった削平という状況とかかわる可能性が高い。

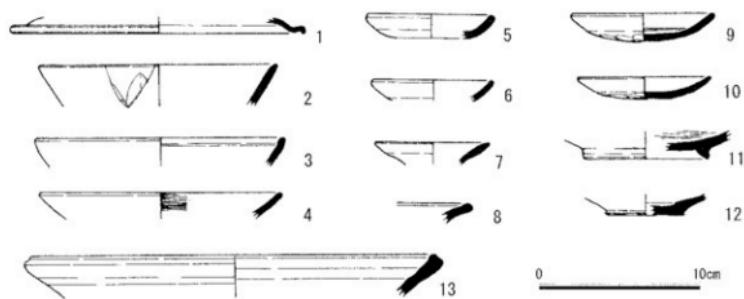
S B01は比較的大型の建物であり、もしこれが古代のものであればこれも敏馬泊にかかるものである可能性が考えられる。第6次調査で古墳の西で八世紀末の大型の建物の存在が確認されており、また今回古墳の北で大型の掘立柱建物が確認されたことは、味泥の入江の周囲を囲むように泊にかかる施設が存在する可能性が高くなったことを示すものだろう。

先述のように、当地は陸海の交通路が交差する地点であり、舟入あるいは港を管理する施設や倉庫、山陽道がここを通過するための入江あるいはこれに流入する河川を跨ぐ橋等の存在が予想される。古墳の北から西にかけての地域には入江を囲むかたちで、西求女塚古墳塚とは別の、交通また物流の要という性格を持つ遺跡が広がると推測されるだろう。

この遺跡については現在のところ西求女塚古墳と別個のものとして把握されておらず、その範囲も把握されていない。したがって古墳の周囲を除き遺跡としての認定

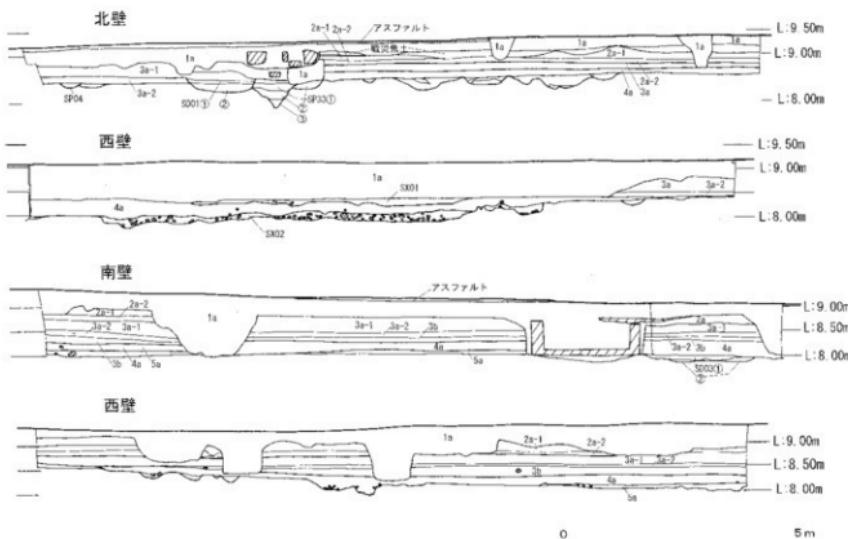


すら行われていない現状がある。律令期を中心とし古墳時代から中世につづく独立した遺跡としてここを認識し、その範囲を確認することが早急に望まれる。



1: SX03, 2・11: SX01, 3・4・7・8・10・12・13: 4a層,
5: SP63, 6: SX02, 9: SP61
(1・3・12・13: 頸部器、2: 青磁、4・9~11: 瓦器、5~8・10: 土師器)

fig.40 出土遺物実物図 (1)



- 1a. 黑褐色土・搅乱・盛土
- 2a-1. 第2次大觀までの地表土（水田耕土）
- 2a-2. 同末土 3a-1. 灰黃褐色砂質シルト
- 3a-2. 黑褐色砂質シルト 3b. 黑褐色砂質シルト
- 4a. 黑褐色砂質シルト 5a. 黑色紺じりシルト

fig.41 調査区断面図

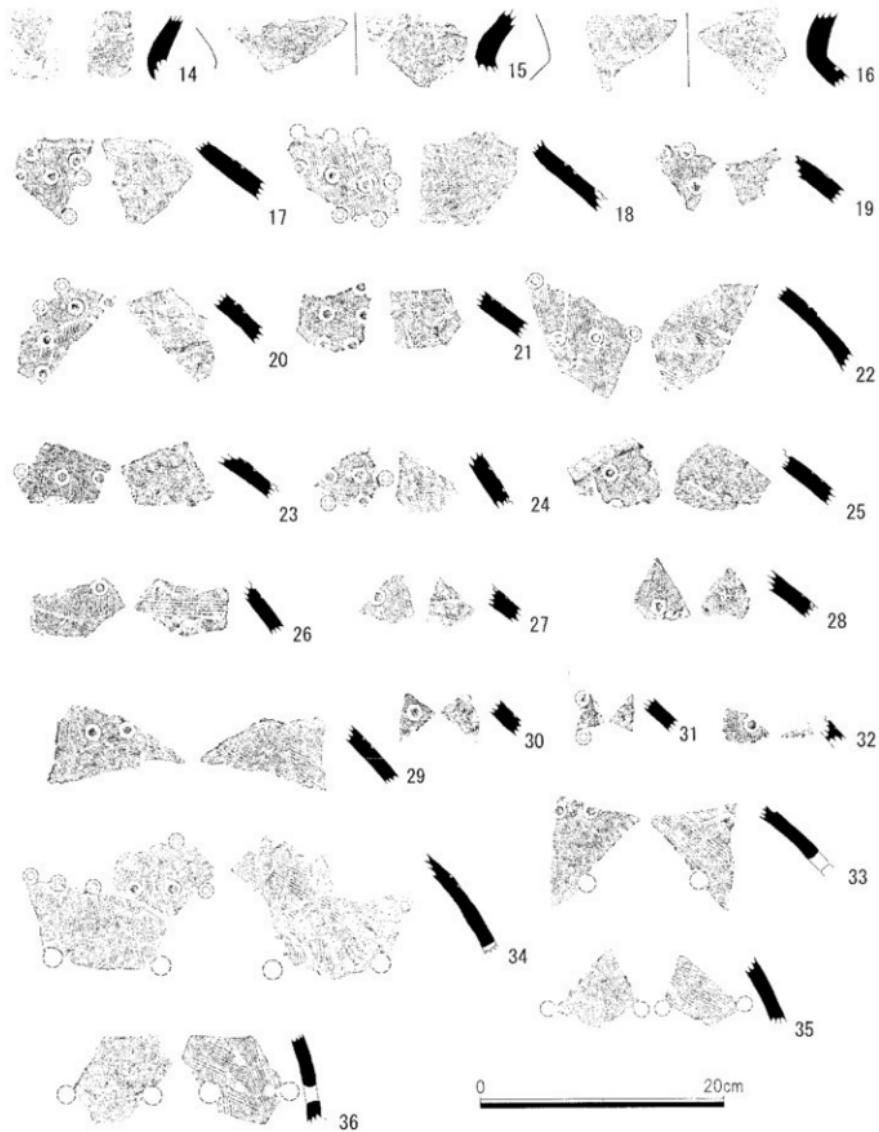


fig.42 出土遺物実測図（2）

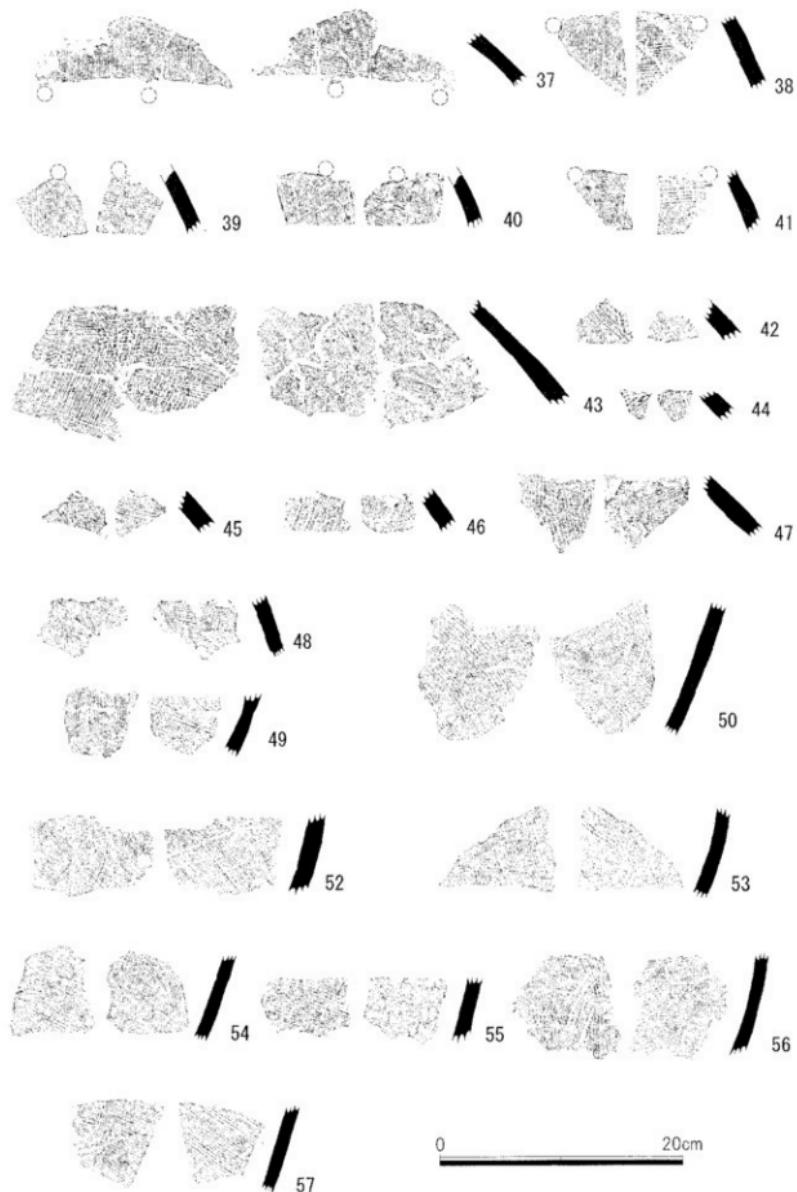


fig.43 出土遺物実測図（3）

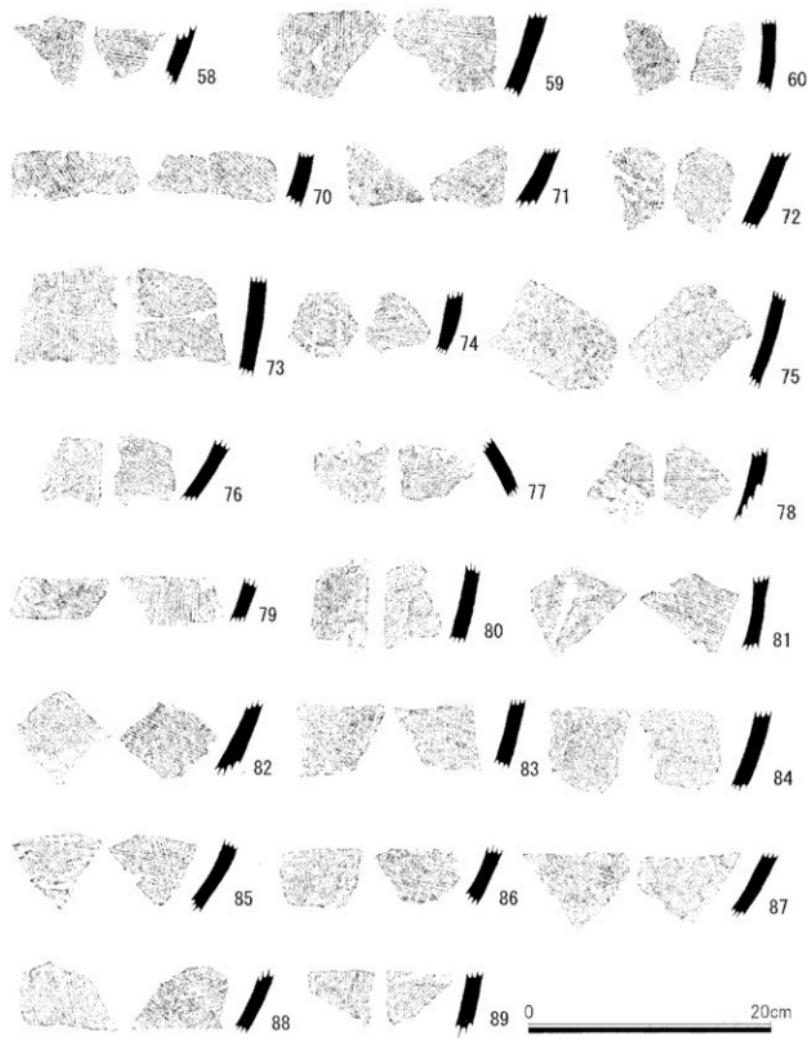


fig.44 出土遺物実測図（4）

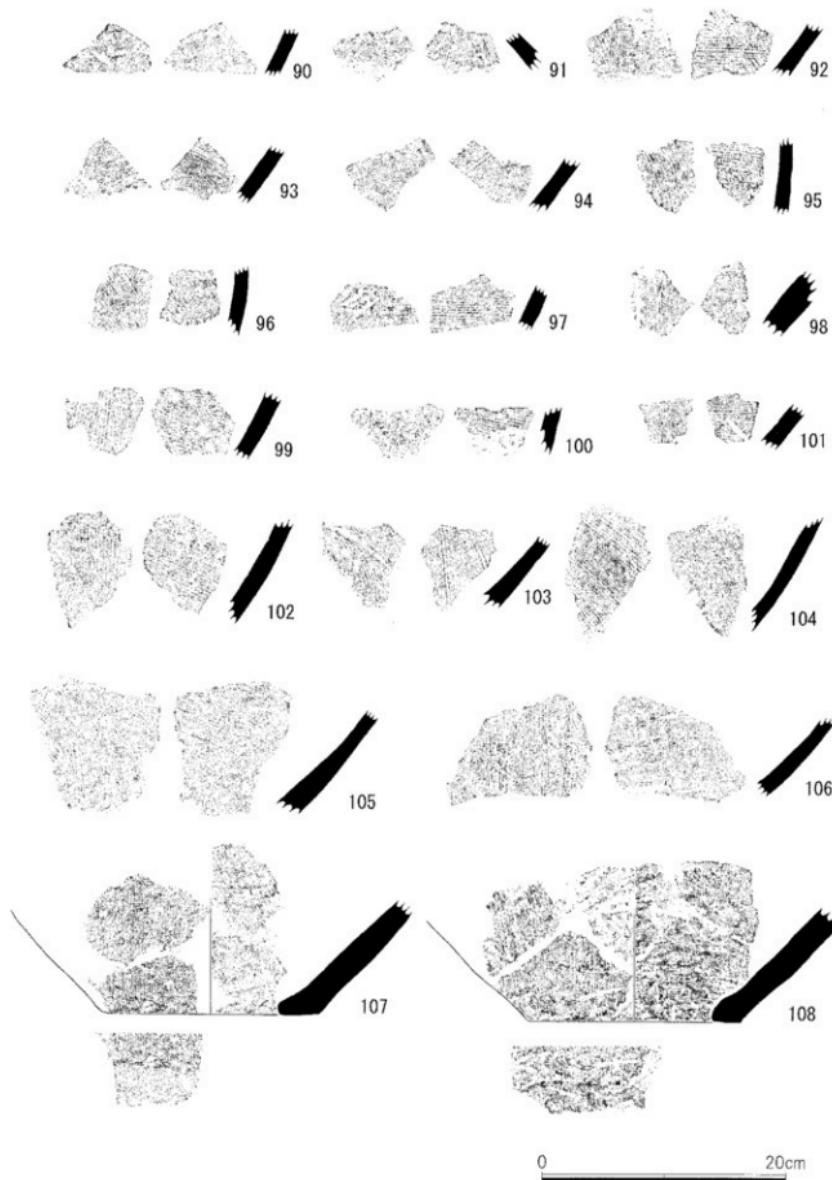


fig.45 出土遺物実測図 (5)

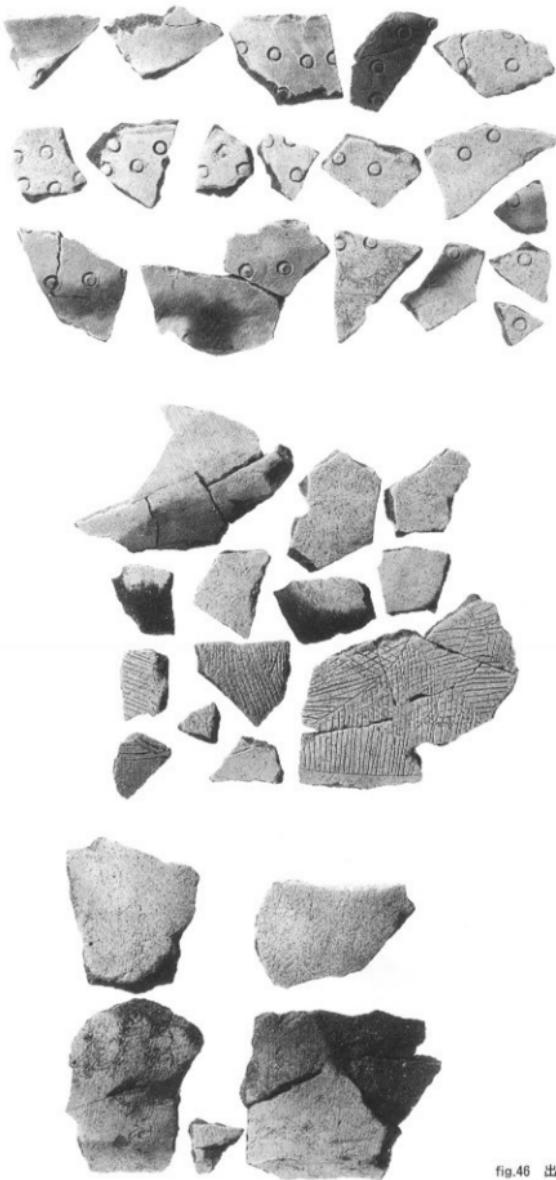


fig.46 出土遺物

6. 雲井遺跡 第17次調査

1. はじめに

雲井遺跡は、六甲山南麓から南に流れる生田川によって形成された複合扇状地の末端に近い傾斜地に立地している。これまでの調査から縄文時代早期～中世にかけての複合遺跡であることが判明してきている。

特に第1次調査では弥生時代中期の周溝墓群を検出しており、良好な一括資料が出土している。また、縄文時代前期の炉址等も検出している。しかし今回調査地の近接地である第7・16次調査は、弥生時代中期の遺構密度は低く、中世の建物等を検出している。



第3遺構面 褐黄色石混じり砂質上～シルト質極細砂層上面で検出した。遺物はほとんど出土していない。上坑2基、ビット9基を検出している。弥生時代前期に相当する遺構面と考えられるが、遺物がほとんど出土していないため、詳細は不明である。

断ち割り 下層の暗褐色シルト質極細砂層、暗褐色シルト質極細砂層は土壤化しているため、調査区の東西に幅1.5m、長さ15mのサブトレントを設定し、断ち割り調査している。遺構・遺物は確認されなかった。

また、さらに下層には安定した黄褐色石混じり砂質土層があったためこの層まで掘削をおこなった。トレントの東でこぶしから直徑約1mの礫が集中して検出されたものの、遺物・炭などは全くみられないことから、人為的な遺構ではないと考えられる。

3. まとめ 今回の調査地は、生活面と考えられる土壤化層を4層確認している。調査区の北西に位置する第16次調査では褐灰色砂質土層上面にも遺構を検出していたが、この調査区では擾乱により削平されていたため、遺構は検出できていない。

また、第2遺構面の包含層である黒灰色石混じり砂質土層からは遺物がまとまって出土したもの、遺構は非常に希薄であった。このことは調査区の西に位置する第7次調査地点でも同様で、付近には弥生時代前期～中期は遺構頻度が低いことが明らかになった。

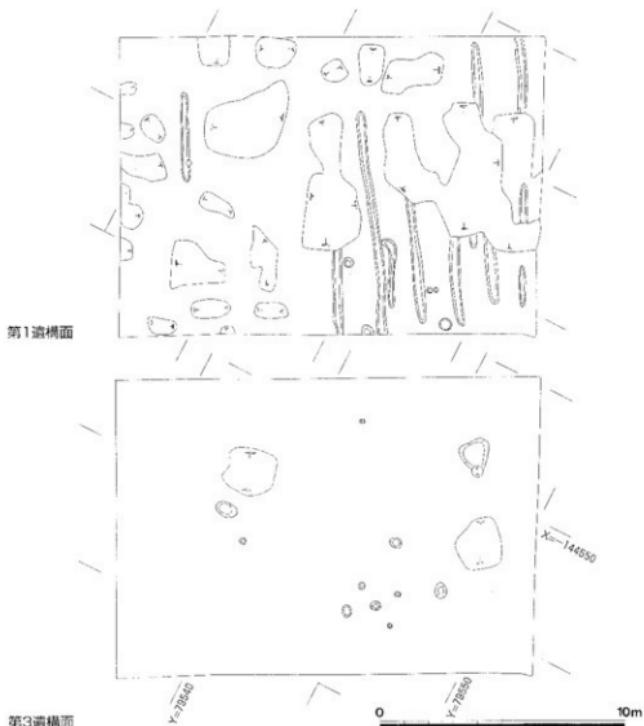


fig.48

調査区平面図

第3遺構面

1. はじめに

当地はかつての摂津国八部郡にあたり、鯉川右岸の段丘上、現在のJR元町駅の西側山手に位置する。花隈城は天正年間初めに織田信長の命により荒木村重により築城されたが、天正八年（1580）、信長に背いた村重を討つ命をうけた池田信輝・輝政の軍により落され、魔城という運命をたどる。わずか数年と短命の城であった。池田家にはこの城攻めを記録するために後に作成された『摂津國花熊之城図』が伝えられる。この史料により、城には本丸・二の丸・三の丸、城の西に町屋、東に侍町・足輕町があり、いずれも切り岸や堀で囲まれているという城の構造を知ることができる。

魔城の後、兵庫城築造のため石材が抜かれたと伝えられ、現在、地表には全くその痕跡を残さず、現在はその位置等も推定されるだけの幻の城となっている。今回の調査地の近隣でも発掘調査が行われているが、城に関連する遺構等は確認されていない。

fig.49
調査位置図
1:2,500



2. 調査の概要

今回の発掘調査は、兵庫県南部地震で全壊した神戸栄光教会の再建に先立つもので、建築工事により遺跡の破壊される部分約1000m²についてこれを行った。調査の結果、遺構面1面を検出し、弥生時代から近代にいたるまでの遺構・遺物を確認した。

弥生時代

調査地の西で弥生時代の竪穴住居（S B01）、また調査地の東半で古い埋没谷（流路01・流路02）が確認された。

S B01

二本柱の比較的規模の小さい竪穴住居。北辺が全く残らないなど擾乱により遺存状況が悪い。主軸方向をW-25°に並び、芯々で一辺約3.4mをはかるプラン方形、両者の間隔は1.9mをはかる。土層断面の観察から、地震などの原因により柱穴の上位が共に東方向にずれている状況を確認した。柱穴の中間に中央土坑がある。

埋土から弥生時代中期の土器が少量出土している。

流路01

幅約15m・深さ2mをはかる谷。弥生時代前期のものも少量見られるが、谷底で弥生時

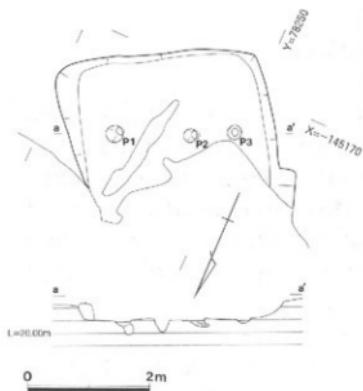


fig.50 SB01平面図・断面図

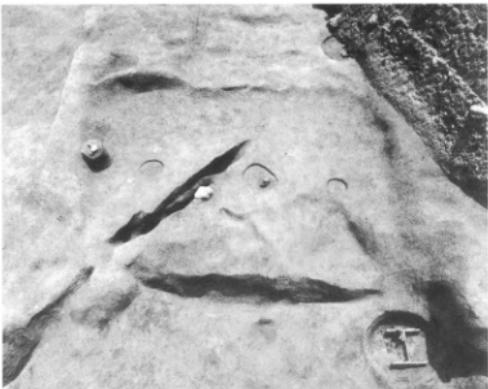


fig.51 SB01

代中期後葉から後期にかけての土器が投棄されたような状態で多く出土している。この中に魚を籠焼きした弥生時代中期末の土器のあることが確認された。このほか、この谷の右岸斜面上位で、「碧玉」製管玉が出土している。層位からはその時代を判断できないが、細身の形態から弥生時代のものである可能性が高い。このほか、魚を線刻した弥生時代中期末の土器片が出土していることも注目される。

また倒木のほか、当時の樹木が立木の根部分が根をはったままの状態で確認された。

流路02 流路01に合流する谷で、幅約5m・深さ1.2mをはかる。谷底から弥生時代中期後葉から後期の土器、倒木などが出土している。

飛鳥時代～鎌倉時代 この間、流路01の埋没はさらに進み、鎌倉時代にはほぼ完全に谷が埋没する。

この谷が埋没していく過程で、その下流がせき止められ、谷が溜め池として利用される。流路01の埋上半の堆積土は土壤化の進んだ粘土となっており、特にその下位には葦根が多く遺存していた。当地のような傾斜地の谷地形において淀んだ水成堆積は自然には考えにくい。この状況は下流で谷の流水をせき止められる状態が発生した結果と思われる。葦の根が残る8層以下には谷中央部に多く杭が打ち込まれていることが確認されており、恐らく谷の封鎖という状況の発生は人為的な行為の結果、すなわち調査地内で堤の存在は確認されていないものの、溜め池築造の結果である可能性が高いと推定される。5層下面には動物、おそらく牛の蹄跡が全面に残されており、この溜め池は家畜の水場としても利用されていることが確認された。

溜め池の堆積土からは飛鳥時代以降の土器が出土しているが、その量は少なく、溜め池の築造された時期の確定は困難である。最上位の4層から鎌倉時代の遺物が出土しており、このころまでに谷の埋没が完了したものと思われる。

S X01・08 流路01と流路02の合流部、両者に挟まれる付近（S X01）と流路01右岸南S X08部（S X08）の2ヶ所で、谷の肩部が地山土と溜め池の堆積土様の土で埋め立てられている。この盛土の上面に蹄跡が見られる。ことから、この盛土は溜め池が機能しているときに行わ

れたものであることが確認できる。谷肩部を埋め立て、平坦面を拡張しようとしたものであろうか。

S K01~07 流路01の右岸肩部には不整形な落ち込みが連続して存在する。埋土は砂あるいは土壤化の進んだシルトで、おそらく水流がかかわって形成された遺構と思われる。

S D18 弧状にのびる鶴溝状の溝群。この溝群と切りあくたちでS K11~13などの土坑群が存在するがS D18はごく浅い溝であり、両者の切り合い関係は判然としない。出土遺物は溝



① 塗地 ② 明灰褐色砂質シルト

- S K01 1. 黒褐色粘沙質粘土 2. 反オーリーフ細砂 3. 黄褐色粘沙質粘土 4. 黄褐色粘沙質粘土
5. 黑褐色粘沙質じり粘土 6. 黑色粘土 上部に鰐歯の足跡発見 7. 黑色砂・灰色シルト質砂の互層
8. 黑色粘土・黒色がれ疊合 9. オリーブ黒色粘沙質じり粘土 10. オリーブ黒色粘沙質じり粘土
11. 黑色シルト質じり粘土 12. 黑色砂質じり粘土 13. 黑色細砂・植物遺体多し 14. 黑色砂・灰色シルト質砂の互層
15. 黑褐色砂質じりシルト 遺物遺体多し 16. 黑色細砂・植物遺体多し 17. 黑色砂質じり粘土
(1~3:後曲輪代までの遺物を少量含む、4~5:ほとんど遺物無し、6~7:飛鳥時代の遺物を少量含む、
8~14:弥生時代中期の遺物を多量含む)

- S K07 17. 深色砂～中砂 18. オリーブ黑色砂質じり粘土 19. 黑色細砂

fig.53 流路01・S K07断面図

・土坑とともに中世以前のものである。

S X05 付近にある浅い落ち込み S X05 からは馬歛が出土している。

安土桃山時代 花熊城にかかることが明確に判断できる遺構は確認されなかった。しかし、この時期以降 のものである可能性のある遺構として石垣 SW01がある。

SW01 後世の擾乱により残りが無く、最下段および下位段の一部を残すに過ぎないが、延長約 15m 分が確認された。本来の石垣の高さを推定する手がかりとしては、調査区の西隅、S K 15付近に残る遺構面のレベルがある。この部分の標高はおよそ 20.7m、石垣の基底が



fig.54
SW01

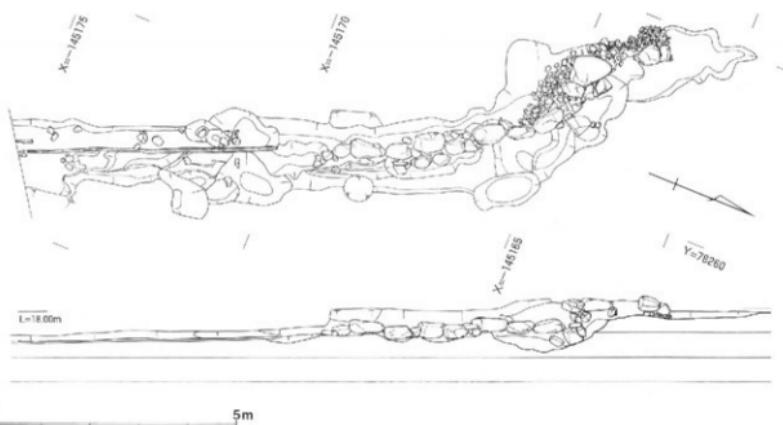


fig.55 SW01平面図・断面図

19.4~19.5m。背後に残る遺構面のレベルが石垣上面のレベルであれば、復元される石垣の高さは約1.2mとなる。

かろうじて残っている石垣の石材は前に傾いているものが多く、積みなおしが行われている部分等も確認できる。裏込めに栗石等がある部分と土のみの部分があり、施工状況に違いがみられる。栗石の間からは江戸時代の陶磁器が出土しており、この部分については積みなおしが江戸時代に行われたことを確認できた。石垣築造当初と考えられる裏込めに土を用いた段階の特定は、出土遺物が少なく遺物からこれを行えない。ただし、石垣自体は野面積みのものであり、安土桃山時代のものと推定して大過ないと思われる。



fig.56 S W01胴木

石垣の下に不等沈下を防ぐための胴木が敷かれている部分のあることも確認された。胴木は径20cmほどの木材1本ないし2本が石垣の下にこれに併行して置かれる。胴木の敷かれる部分は、石垣の積まれる基底面となる土層が古い流路（S D20=遺物の出土なし）の埋没砂層である部分に限られ、堅緻な基盤層の部分にはない。

S D10 石垣の前面にある側溝からは江戸時代あるいは明治時代までの陶磁器類が出土しており、この石垣は土地を画するものとして栄光教会の建物が建設されるまで利用されていた可能性が高い。出土遺物のなかには戦国時代に中國から輸入された青花など花隈城の時代に合う陶磁器、あるいはそれ以前の土器類も存在する。また、調査時石材を散水しながら洗い出したため、石垣周辺からは通常目に付きにくい遺物である火打ち石等もかなり多く出土している。

S D01 S D10を切る溝。S D10の北部にはぼ重なってのびるが、残存する石垣の北端付近で直角に曲がり、S X06の北辺に沿ってのびる。埋土に明治以降の陶磁器を含む。

S X06 一辺約4.5mをはかるプラン隅円方形の大型土坑。深さは遺構確認面から約40cm。埋土から江戸時代の染付け等が出土している。

3. まとめ

今回の発掘調査で確認できたことは現時点で以下の通りである。
①弥生時代・弥生時代中期末の土器が出土した竪穴住居等が確認され、この時期の集落が当地に存在することを確認した。

②弥生時代の谷からは、投棄されたような状態で多数の弥生土器が出土した。そのなかから、弥生時代中期末の土器に魚を描くものが確認された。

神戸市灘区桜ヶ丘神岡出土の4号銅鐸・5号銅鐸に魚のモチーフがみられる。同様の絵画土器には兵庫県川西市加茂遺跡・大阪府東奈良遺跡・瓜生堂遺跡・龜井遺跡・奈良県唐古鍵遺跡・清水風遺跡などの出土例がある。これらは描法が極めて類似しており、魚に対する共通のイメージがあったと考えられる。それは単に図像だけでなく、その背後にある

物語、あるいは神話を共有していたと推測される。

他に、弥生時代のものと思われる「碧玉」製管玉（fig.61 116）の出土もあった。

③弥生時代前期から江戸時代に至るまでの遺物が出土しており、当地では継続的に人々の生活が営まれていることを確認できた。遺構としては鎌倉時代までに埋没する溜め池の存在が推定される。遺物の中にはヘラガキ花紋をもつ平安時代の綠釉陶器（fig.58 34）など珍しいものが認められる。

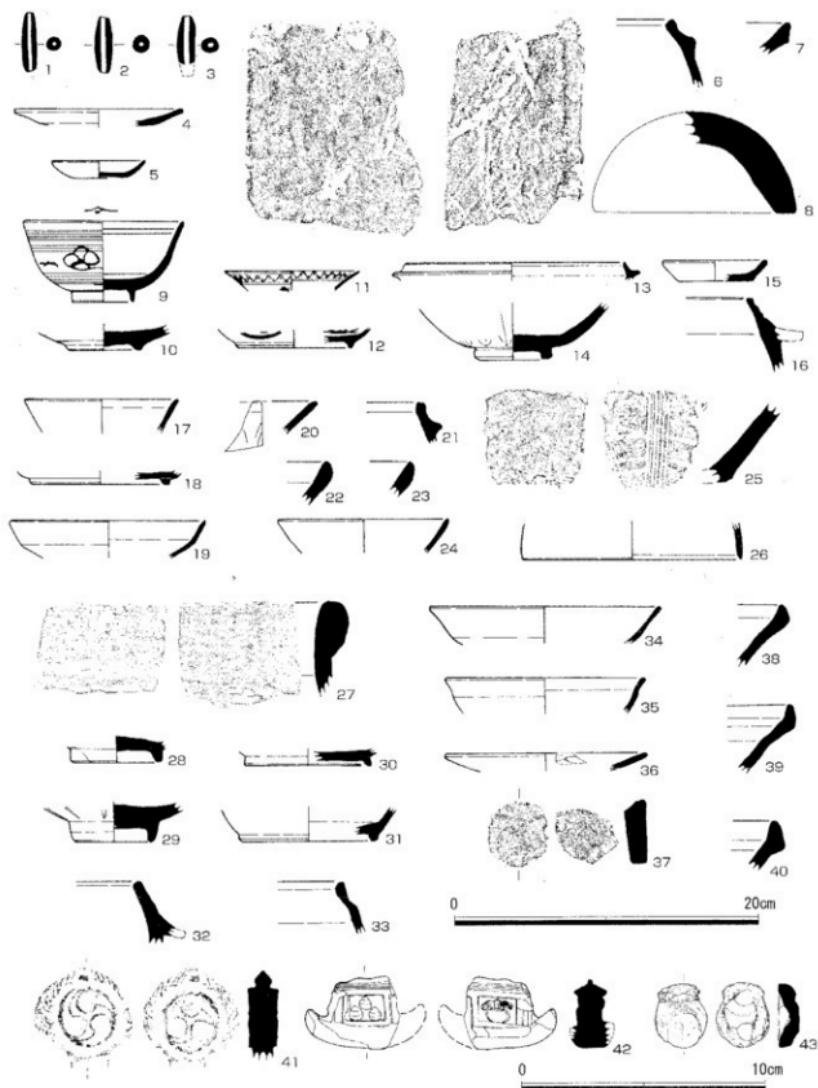
④野面積みの石垣が確認され、これは花熊城に関係する遺構である可能性が考えられる。ただし、調査地は段丘上面の平坦面が鰐川に向かい下がりはじめるいわば肩部にあたり、立地的には、城の外郭部にあたる可能性が高い。

⑤なお、今回の発掘調査に関連して、岡山池田家文書『摂津国花熊之城図』（岡山大学附属図書館池田文庫所蔵）と現況市街図を重ね合わせる作業を行ったところ、対応する部分が多く、『摂津国花熊之城図』の精度はかなり信頼のおけるものであることが明らかになった。実際の測量図を基本としていることが推定される。

今回の調査地の北側道路の状況も両図がよく合致しており、第1次調査地は城の東の侍町にあたる可能性が高い。この南西に位置する城の廻守部分は花隈公園の北隣接地に存在するものと推測される。この絵図をもとにした歴史復元が可能となるだろう。今後の発掘調査においてもこの絵図から得られる情報は大きいと考えられる。

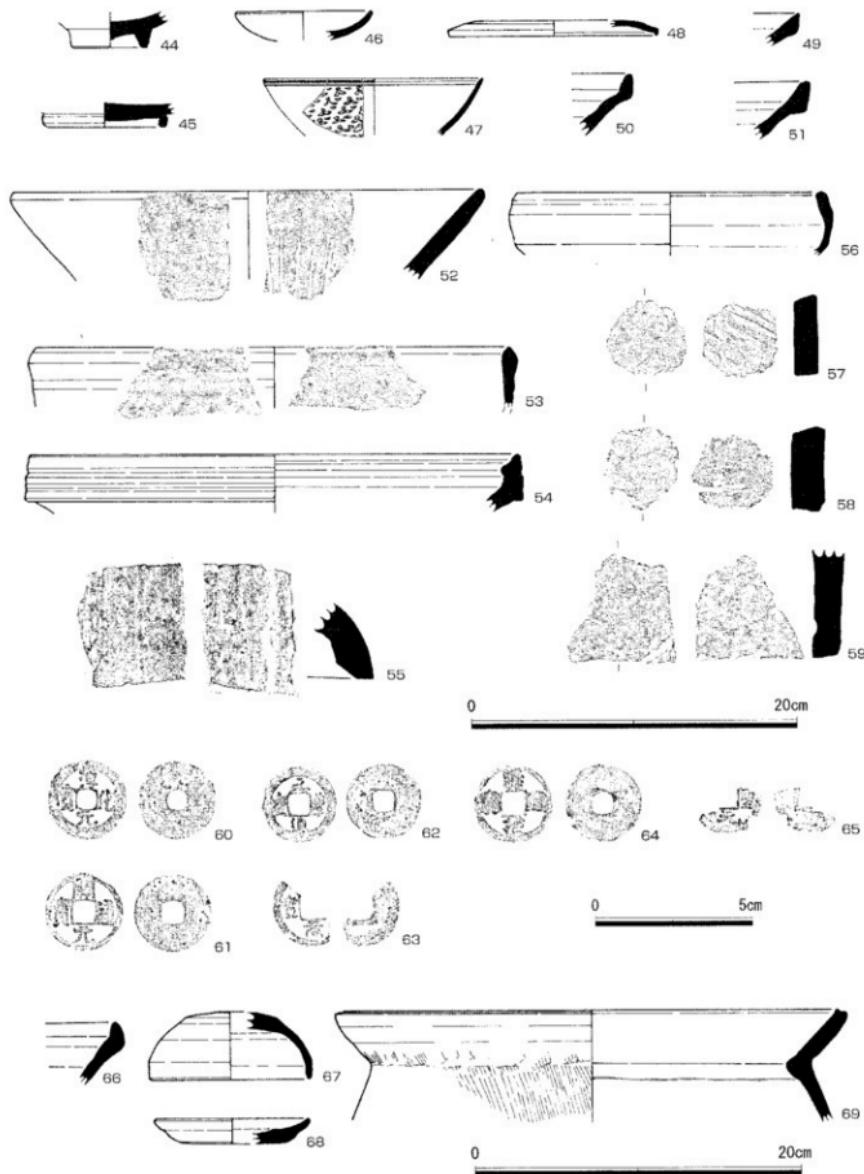


fig.57 『摂津国花熊之城図』と現在の市街図の合成図



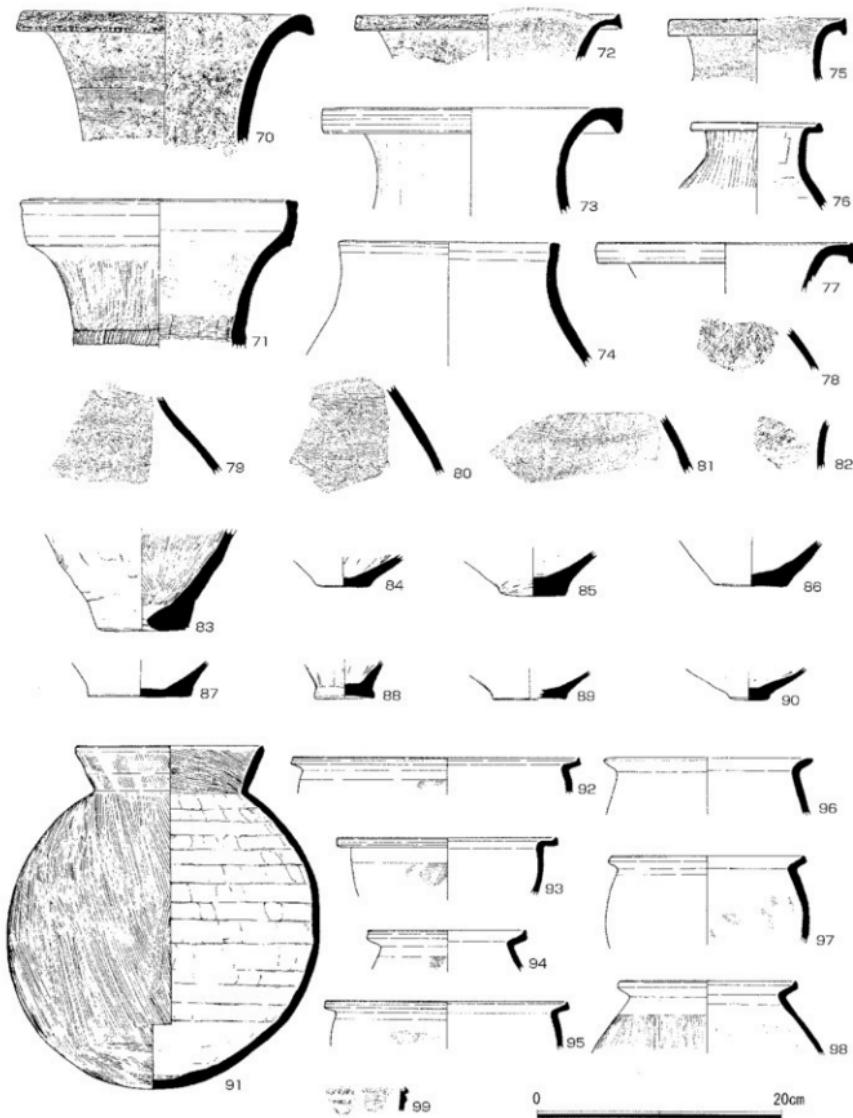
1～8：1箇。9～11：SXC3. 12～16：43：SXC3. 17・18：SD07. 19：SD08. 20：SD06.
 21～25：SK13. 26～42：SD10 (4・19：瓦器. 7・13・17・18・22～24・28・32・33・36～38：漆器器。
 8：瓦. 9：磁器. 11・12・14・20・25：芯入器皿. 10：黄漆碗. 26・27：漆器底. 34：絹地圓形. 35：漆器.
 43の他：土器器 (11：火曜太底. 42：室底. 43：乙漆底))

fig.58 出土遺物実測図 (1)



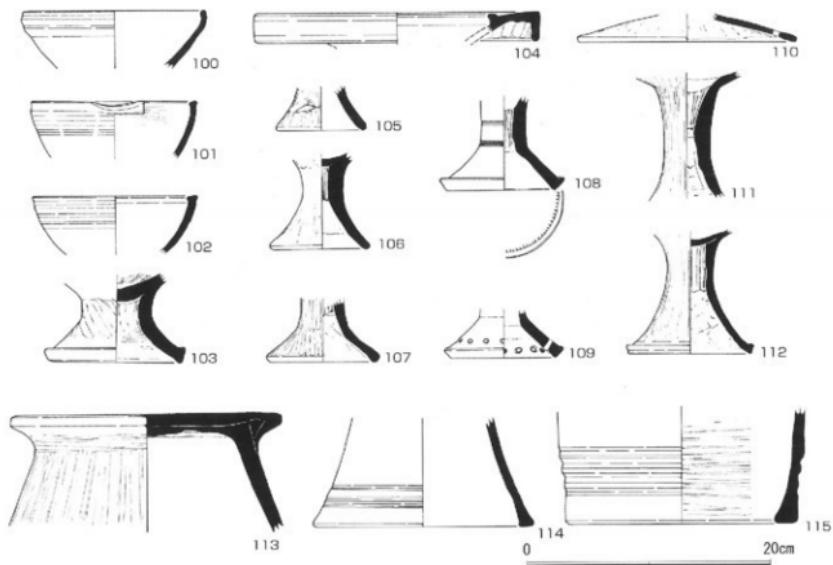
44~64 : S K08, 65 : SD16, 66~69 : 流路01墓上器 (44~46 : 銀戸馬鹿頭, 45 : 青山頭, 47 : 銀入馬鹿, 48~51・66~67 : 銀器, 56~59 : 五, 57~58 : 陶器, 60~65 : 銅錢, その他 : 土的器)

fig.59 出土遺物実測図 (2)



70-99: 竜跡01下層(粘土質)

fig.60 出土遺物実測図(3)



100~121：流路G1下層。122：SW01夷邊（100~115：刃状土器、116：[碧玉] 製管三、117~121：サヌカイト系石器、122左：火打石、左端のもの最大幅26mm、右端：約35mm）

fig.61 出土遺物実測図（4）

— 58 —

fig.62 出土遺物



8. 楠・荒田町遺跡 第31次調査

1. はじめに

楠・荒田町遺跡は旧渋川東岸の段丘面上に位置する遺跡で、市営地下鉄建設に伴い、その存在が明らかになった。昭和53年度に第1次調査が実施されて以来、現在までに30回に及ぶ調査が実施され、弥生時代中期を中心に縄文時代～中世の遺構・遺物が検出されている。特に弥生時代前・中期については西浜地域を代表する集落遺跡として知られている。



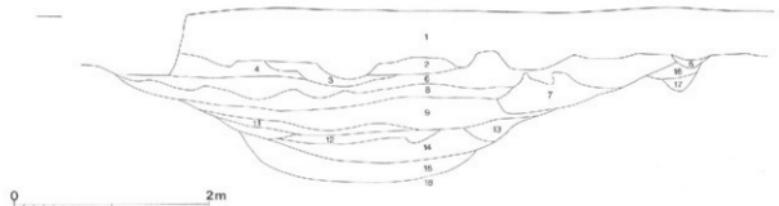
2. 調査の概要

調査地は、従前建物の基礎等による搅乱の影響を大きく受けたが、ほぼ調査区の全域で遺構面を検出することができた。

調査地の基本土層は、遺構面である濁黄灰色シルト直上まで擾乱層であり、遺物包含層は遺存していなかった。現況G.L.から遺構面までは50cm前後である。

SD01

調査区のはば中央で検出した幅6.5m前後、検出面からの深さ1.3mの北東～南西方向の濠状の遺構である。最下層から瓦器が出土しており、最上層からは平安時代末～鎌倉時代



1. 撥乱・擾乱
2. 鈍根灰色砂質シルト (SD01埋土)
3. 灰青色砂質シルト (SD01埋土)
4. 鈍根灰色砂質シルト (SD01埋土)
5. 淡緑灰色細砂+淡灰綠色粘質土
6. 灰褐色砂質シルト (SD01埋土)
7. 鈍灰色シルト (SD01埋土)
8. 褐灰色砂質シルト (SD01埋土)
9. 暗灰褐色砂質シルト (SD01埋土)
10. 灰褐色シルト (SD01埋土)
11. 鈍灰色砂質シルト (SD01埋土)
12. 灰色細砂+淡青色細砂 (SD01埋土)
13. 灰褐色砂質シルト (SD01埋土)
14. 灰褐色砂質シルト (SD01埋土)
15. 淡緑灰色細砂+淡褐色細砂 (SD01埋土)
16. 暗灰色シルト質粘細砂 (SD02埋土)
17. 暗褐色細砂 (SD02埋土)
18. 濁黃灰色シルト (池山層)

fig.64 調査区断面図

の須恵器などが出土していることから、12世紀代に機能し、12世紀後半～13世紀初め頃に埋没したものと考えられる。この他、埋土中からは弥生時代の石鎌、サヌカイト剥片などが出土している。

S D02 調査区東側北半寄りで検出した幅55cm～60cm、検出面からの深さ30cm前後の北東～南西方向の溝である。上半はS D01によって切られている。埋土は2層に分かれ、上から暗灰色シルト質極細砂、暗灰色極細砂である。埋土中から弥生時代中期頃のものと考えられる壺形土器の底部や土器片、磨石が出土している。

3. まとめ 今回の調査で検出された濠状遺構 S D01は、国道428号線を隔てた北東側で平成元年度に実施した第11次調査（旧称第5次調査）においても、ほぼ同時期の北東～南西方向の濠状遺構が確認されている。規模や形状からも、この遺構に対応するものと推定される。この濠がどの様な性格のものであるかは不明であるが、規模が大きく、時期からみて、神戸大学医学部附属病院敷地内で確認された掘立柱建物群や紙團遺跡、福原京との関係も考えられ、注目される。



fig.65 調査区全景

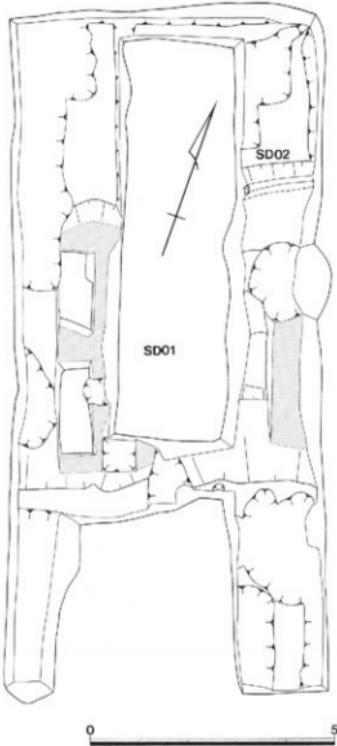


fig.66 調査区平面図

9. 兵庫津遺跡 第32次調査

1. はじめに

兵庫津遺跡は、「元禄兵庫津絵図」に描かれた範囲を昭和58年度から周知の遺跡として神戸市埋蔵文化財分布図に登録している。昭和58年の第1次調査からこれまでに30数次にわたる調査が行われ、近世の町屋遺構が発見された他、鎌倉時代に遡る遺構や遺物などもみつかっている。



2. 調査の概要

平行する溝2条をはじめピット5基等が検出された。

S D201・202 幅3m以上、深さ約1mの東西方向の溝で、約5m間隔で平行して2条が検出された。断面形は、緩いU字形で検出長は2.3mを測る。

溝の埋土からは、須恵器杯・蓋、土師器・甌、京都産の緑釉陶器碗など奈良時代後半から平安時代前半の遺物が出土した。

柱穴 2本の溝から約12m離れた調査坑から柱穴もしくは柵列と考えられるピット5基を検出した。柱穴は直径40cmの円形のものと一辺55cmの方形のものがある。うち直径25cmの柱痕跡が確認できるものがある。調査面積が狭いため建物の規模は不明である。

3. まとめ

検出された溝S D201・202は、その出土遺物から奈良時代に掘削され平安時代前半まで機能していた溝であることが明らかとなった。2条の東西方向の溝の性格は、建物を区画する溝や堤体の一部、または排水施設の可能性が考えられる。

また、この2条の溝の北側には柱穴跡が検出され、その出土遺物から奈良時代から平安時代に築造された掘立柱建物や塀、柵が建っていたことが考えられる。

これらの遺構が発見された地点は、当時の海岸線に近接した場所にあり、検出された遺構が港湾施設の一部である可能性が高いと推測される。

今回の発見は、兵庫津遺跡が文献資料にみられる古代の「大輪田泊」の時代まで遡ることが考古学的に裏付けられる貴重な発見となった。

fig.68
調査区配置図

0 20m

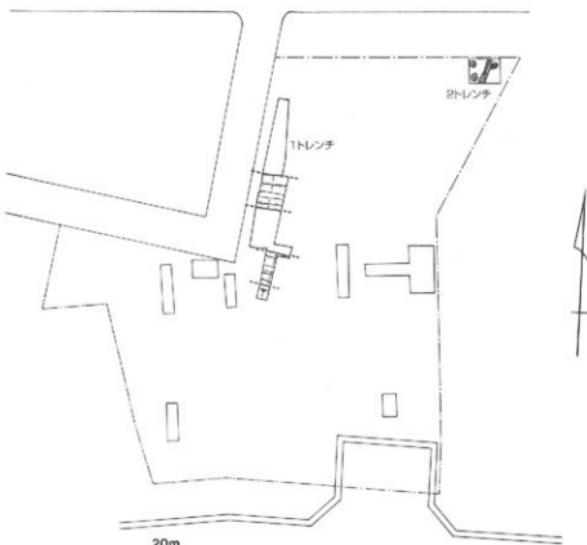


fig.69 調査区遠景

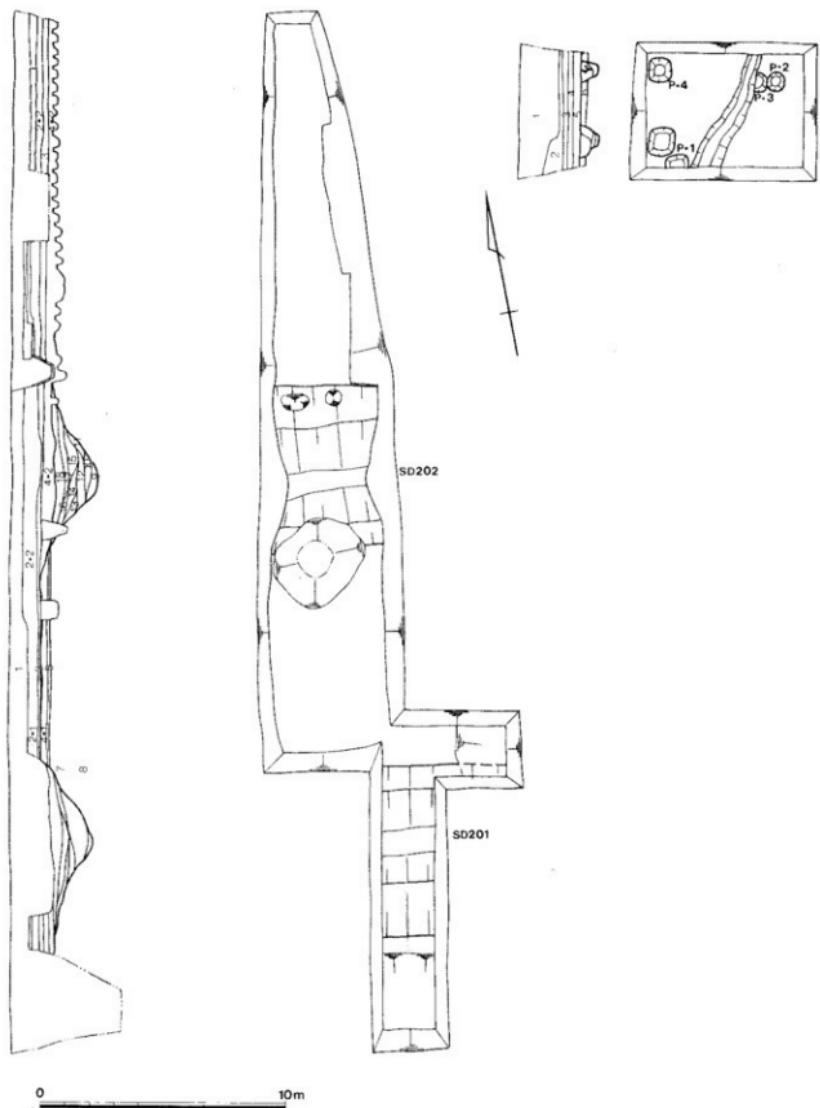


fig.70 調査区平面図・断面図

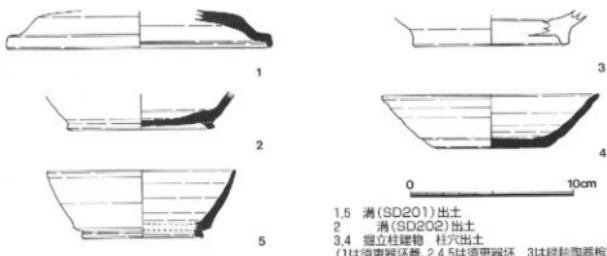


fig.71
出土遺物実測図

1.5 溝(SD201)出土
2 溝(SD202)出土
3.4 捩立柱遺物 柱穴出土
(1は須恵器環蓋、2.4.5は須恵器碗 3は越釉陶器碗)



fig.72 出土遺物

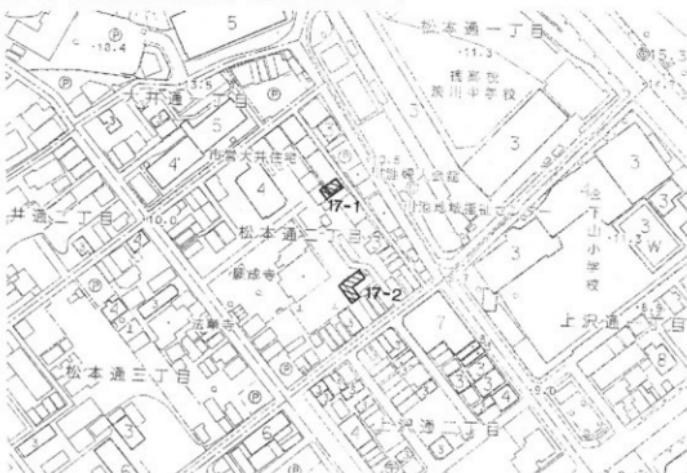
10. 兵庫松本遺跡 第17-1・2次調査

1. はじめに

兵庫松本遺跡は、神戸市兵庫区松本通2丁目に所在する弥生時代～古墳時代及び鎌倉時代の複合遺跡である。遺跡は、六甲山系から派生する旧湊川をはじめとするいくつかの小河川によって形成された扇状地上に立地している。

平成10年度に市営住宅建設に先立て実施した第1次調査以降、区画整理事業に伴う街路築造及び個人住宅建設に伴ってこれまでに16次にわたる調査を実施しており、しだいに各時期における集落の様相などが判明しつつある。

なお本調査の詳細な成果については、平成17年3月刊行の『兵庫松本遺跡 第2～4・12・17・19次発掘調査報告書』を参照いただきたい。



2. 調査の概要

今回の調査は区画整理事業地内の街路部分について実施したものである。着手順に第17-1・2次調査と呼称する。

17-1次

昨年度実施した第12-1次調査区南端部の西側に隣接する調査区である。同調査区と同様に5面の遺構面を確認した。

第1遺構面

現地表下約1.05m（標高約8.8m）で確認した弥生時代末～古墳時代初頭頃の遺構面である。竪穴住居3棟、溝状の落ち込み1条、ピット12基を検出した。

うちSB103は第12-1次調査区から続く竪穴住居である。またSB104については、内部で炭化材や炭がまとまって検出していることから、焼失住居と考えられる。（平成16年度の第19次調査で東部分を検出）

第2遺構面

現地表下約1.2m（標高約8.7m）で確認した遺構面で、ピット1基、土坑状の落ち込み1基を検出した。出土遺物が少ないため明確ではないが、弥生時代後期頃と考えられる。

第3遺構面

現地表下約1.35m（標高約8.5m）で確認した遺構面で、溝3条を検出した。遺構内出

上の遺物が細片のため時期については明確ではない。

第4遺構面 現地表下約2.05m（標高約7.8m）で検出した遺構面で、河道1条を検出した。河道内からの出土遺物から判断して、弥生時代前期の遺構面と考えられる。

17-2次 調査区は、平成13年度実施の第4-8次調査区の北側に位置している。願成寺の南東隅に東接しており、第17-1次調査区の南西約40mにあたる。

調査の結果、隣接地での既往の調査結果と同様に、2面の遺構面相当層を確認した。

第1遺構面 現地表下1.1~1.3m（標高8.1~8.3m）で検出した。弥生時代末～古墳時代初頭頃の遺構面と考えられるが、河道あるいは洪水の痕跡と考えられる溝状の窪みを数ヶ所検出したのみで、その他に明確な遺構は検出されなかった。

第2遺構面 現地表下1.6~1.8m（標高7.7~7.9m）で検出した。弥生時代前期頃の遺構面と考えられる。第1遺構面と同様に河道あるいは洪水の痕跡と考えられる溝状の窪みを数ヶ所検出したほか、ビットを4基検出した。うちS P01・02は深さ15cmで、他の2基は5~10cmである。いずれも掘立柱建物の柱穴である可能性は低いと考えられる。

3. まとめ 今回の調査では、第17-1次調査において弥生前期以降古墳時代初頭までの各時期の遺構を確認したが、第17-2次調査では明確な遺構はほとんど検出されなかった。

これらの調査結果と周辺地での既往の調査結果をあわせて考えると、松本通2丁目の区画内にはば収まとと考えられている当遺跡においては、この区画内のほぼ中央付近や南東隅に各時期の集落域が広がっている状況が想定できるが、この範囲から離れた地区では河道にあたっているかあるいは、洪水による影響を強く受けるなどの理由から安定して集落が存在する状況ではなかったと考えられる。



fig.74
S B104

11. 御藏遺跡 第52-1次調査

1. はじめに

御藏遺跡は、六甲山系南麓の沖積地上に立地し、明治時代に付け替えられた新湊川と合流する茹藻川の左岸に位置する。

現在は住宅、商店、ビル、町工場等が混在する町並みである。この周辺は市街地形成の時期が早く、遺跡の分布が明確でなかったが、昭和50年代後半以降の発掘調査により、長田神社境内遺跡、長田南遺跡や三番町、五番町遺跡、神楽遺跡等の弥生時代～鎌倉・室町時代の集落址が確認され、次第に遺跡の様相が明らかになりつつある。

また、この付近は平成7年の阪神淡路人震災による被害の著しかった地区であり、その後復興事業として区画整理が施工され、復興共同住宅建設、街路・道路新設工事、住宅の建て替え等に伴い、継続的に発掘調査が実施されている。今回の調査は、公園内に新設される防火水槽の予定地および、街路設置部分の調査を実施した。



2. 調査の概要

防火水槽建設予定地は、 $10 \times 10\text{m}$ の範囲の調査を実施した。現況表土から中世頃の耕作土である暗灰色粘質土までをバックホーで掘削し、掘削土は場外に仮置きした。

1区の調査

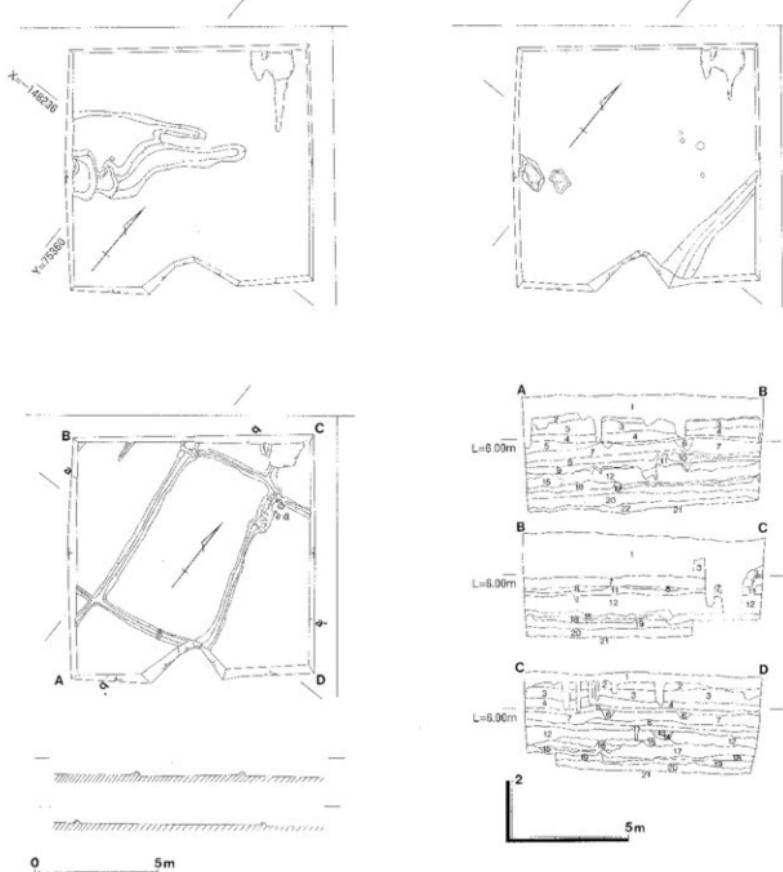
基本層序

1区の基本層序は以下の通りである。

1. 瓦礫・焼土を主に含む表土・整地土、2. 淡黒灰色粘性砂質土（近代の耕作土）、3. 黄灰色粘性砂質土（中・近世頃の耕作土）、4. 暗灰色粘性砂質土（中世頃の耕作土）、5. 黄灰色粘性砂質土（中世頃の耕作）、6. 褐色混じり暗灰色粘質土（耕作土・下半分に奈良時代の土器を多く含む）、7. 灰褐色砂質シルト（少量の須恵器・土師器を含む）、8. 暗褐色砂質シルト（第1遺構検出面）、9. 黄灰色細砂～極細砂（第2遺構検出面）、10. 黄灰色細砂～粗砂（洪水による堆積物、庄内並行期の土器を若干含む）、11. 暗灰褐色シルト（第3遺構検出面）、12. 灰褐色シルト（下半分は還元して青灰色になる）、13. 青灰色粗砂（洪水による堆積物）

地表面から第1遭構面までは、約0.8mの深さがある。

第1遭構面 暗褐色砂質シルト上面では、不定形の浅い落ち込みが確認された。また、上の層から踏み込まれた偶蹄目の動物（おそらくウシ）の足跡が一面に残されていた。これらの落ち込みについてはそれらの動物によって、上層の耕作土が踏み込まれ、陥みが形成されたもの



- 瓦礫・漂土・再生砂石・真砂土
- 淡黒褐色粘性砂質土（近代耕作土）
- 黄褐色粘性砂質土（近世耕作土）
- 暗灰色粘性砂質土（中世耕作土）
- 黄褐色粘性砂質土（中世耕作土）
- 淡黄褐色粘性砂質土（歴史耕種土）
- 褐色混じり暗褐色粘性土（耕作土・下半分は砂っぽく、奈良時代の土器が多く含む）
- 暗褐色砂質シルト（土器を僅かに含む・洪水堆積土か）
- 明灰褐色細砂～極細砂（第1消溝面）
- 暗褐色細砂～極細砂（第1遭構面）
- 暗茶褐色シルト（漏窓器・土器を若干含む）
- 黄褐色細砂～極細砂（第2消溝面）
- 暗灰色中砂（S D 201堆積土）
- 暗灰褐色砂質シルト（S D 201堆積土）
- 黄褐色中砂～粗砂（溢流堆積物）
- 黄褐色細砂（溢流堆積物）
- 黄褐色中砂～粗砂（溢流堆積物）
- 黄褐色細砂～極細砂（溢流堆積物）
- 暗灰褐色シルト・粘質土（水田層・第3遭構面）
- 灰褐色シルト（土壤化の度合いが低い・下の方は青灰色に遷元している）
- 青灰色粗砂（洪流水砂）
- 黄褐色細砂（溢流堆積物）

fig.76 1区平面図・断面図



fig.77
第3遺構面全景

と思われる。

第2遺構面

暗褐色砂質シルトを除去した段階で溝1条とピット4基、浅い落ち込み2基を確認した。溝S D20は、検出長約5.2m、幅は0.6~1.2m、深さ約0.1~0.2mでシルトと中砂が堆積している。この溝からは、土師器の細片が出土したのみで、精確な時期は不明である。ピットは直径0.15~0.3m、深さ0.05m未溝といずれも浅い。落ち込み（SX201、202）は不定形で底面には凹凸がある。

第3遺構面

第2遺構面より下は黄灰色極細砂～粗砂が約0.4~0.5m堆積しており、河川の氾濫による溢流堆積物と判断される。この堆積物には、庄内並行期の土器が若干含まれる。

この堆積物を除去すると、暗灰褐色シルト層が広がり、上面で水田畦畔が確認された。

畦畔は調査範囲内では、7.5×4.0~4.5mのやや歪な長方形を呈する。畦畔の幅は0.3~0.4m前後で、高さは0.05~0.1mほどである。畔の一部が切れている個所があり、畔越しに水を流した様子が窺える。各水田面の高さから、おおよそ北西～南東方向に水を配水したと推定される。なお、水田面には耕起した痕跡や種株の痕、足跡等は検出できなかつた。

2区の調査

基本層序

基本層序は1区とほぼ一致するが、地表面から1m位までは土壤改良工事による搅乱を受けており、以下の層もその薬剤の影響で上層観察が不可能の部分があった。

検出遺構

調査の結果、1区の第2遺構検出面に相当する黄灰色細砂～極細砂上面で不定形の落ち込み2基が確認された。1区で水田畦畔が検出された暗灰褐色シルト層は、2区でも確認されたが、畦畔は発見できなかった。

3区の調査

基本層序

基本層序は1区と概ね一致するが、表土に近い部分は廃油のしみ込みによって土層堆積の状況が明瞭でない。

調査の状況 この調査区では遺構は検出できなかった。1区で水田畦畔が検出された暗灰褐色シルト層は、この調査区の西半分では、洪水堆積物である細砂～粗砂層で削り取られていることが判明した。

3. まとめ 今回の調査では、1区で3面の遺構面が確認できた。第1・2遺構面では溝、ピット、落ち込みが確認された。とくに第1遺構面ではウシと思われる偶蹄目動物の足跡が、数多く発見されており、耕作地であったと考えられる。遺構からは、時代が判定できる遺物が出ていないため、正確な時期は判らないが第1遺構面は平安時代末～鎌倉時代初め頃、第2遺構面は奈良時代～平安時代前半頃と判断するのが妥当であろう。

第3遺構面では、洪水砂に覆われた水田畦畔が良好な状態で確認された。水田面からは全く遺物は出土していないが、洪水砂に含まれていた土器と、これまでの周辺の調査結果から判断して、庄内並行期の水田と判断される。

2・3区では、いずれも狭小な調査範囲であるため、2区で不定形の落ち込みが検出された以外は、明確な遺構は発見されなかった。

これまでの調査成果から、今回の調査地付近は微高地に挟まれた湿地状地形にあたり、庄内並行期以降、耕作地として利用されてきたことが今回の調査によっても追認された。

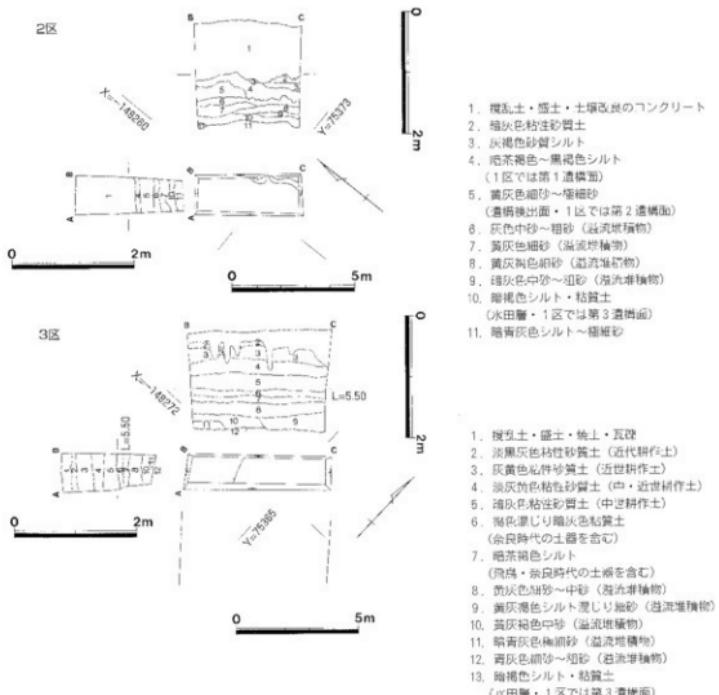


fig.78
2区・3区
平面図・断面図

12. 御藏遺跡 第52-2・53次調査

1. はじめに

御藏遺跡は六甲山系の南面、芦薙川左岸の瀬戸内海に面する平野部に位置する。これまで行われた発掘調査の結果、縄文時代晚期から現代にいたるまでの遺構・遺物が確認されている。「御藏」の地名は江戸時代、当地に御藏米の倉庫があったことによるとされる。

調査により縄文時代晚期から近世に至るまでの遺構・遺物が確認されているが、とりわけ律令期の大型掘立柱建物・井戸など、遺物として縄文陶器・灰釉陶器などのほか、官衙的施設の存在を示す瓦・硯・鍵などが確認されていることが注目される。

また、1970年頃この地区で側溝工事が行われた際、今回の調査地の南東にあたる交差点で地表下1.3mほどの深さから石塔多数（17基以上）が出土したという。



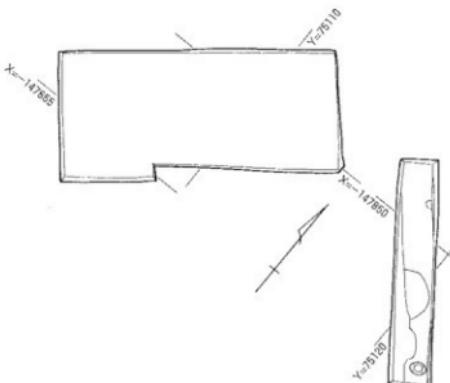


fig.80
第1造構面平面図

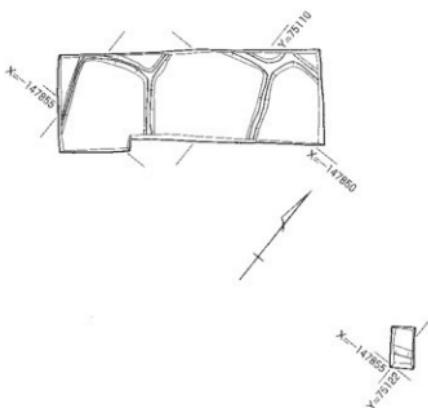


fig.81
第2造構面平面図

少量出土している。

第3造構面 厚く堆積する洪水砂7c層に覆われる8a層は7a層同様の土壌化の進んだ土層である。

畔畔等が確認されなかったため、造構として水田である確認をとることはできなかった。

8a層上面の検出・精査時に突帯文上器・ナムカイト製石器等の遺物が出土している。

8a層からの遺物の出土はなかった。

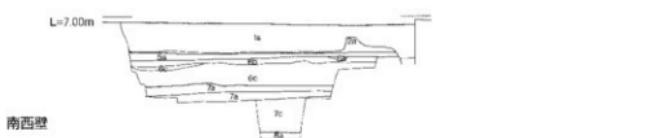
3. まとめ 律令期の造構面である第1造構面では掘立柱建物の柱穴かと推測される柱穴が検出され

ている。これまでの発掘調査においても今回の調査地以西は律令期の遺物は比較的多く出土するものの、遺構はほとんど確認されていない。これに対し、東では律令期の遺構が濃密に確認されており、ここで確認された遺構が掘立柱建物であれば、律令期の遺構が集中する範囲に入る地点の一端を確認したことになる。第2遺構面では水田が検出されている。

今回の調査地の北西約50mにあたる第31次・第33次調査地で確認された遺構面と今回確認されたものを表で比較すると以下の通りになる。

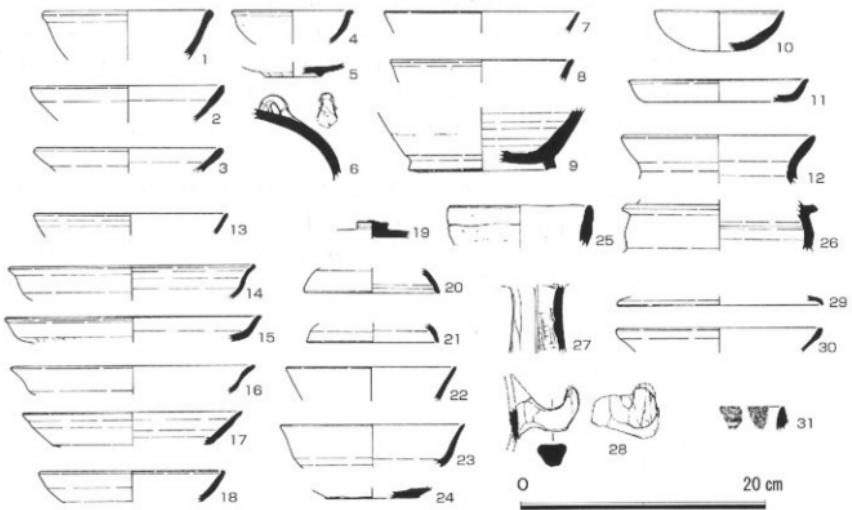
出土遺物によって対応関係を確定できたわけではないが、遺構面の状況でみると表に示す対応関係になるかと思われる。この対応関係が正しければ、第53次調査の第2遺構面の水田は古墳時代はじめになる可能性が高い。また第33次調査で確認できなかった第6遺構面の時期が日本における稻作導入期にまさかのぼる可能性が出てこよう。

第31・33次調査	第52-2・53次調査
現地表(1a層上面)：約7.3m	現地表(1a層上面)：約6.9～6.7m
第1遺構面(4a層下面)：約6.7～6.5m 鋸溝	—
第2遺構面(4b層下面)：約5.5～4.4m 溝	—
第3遺構面(7a層上面)：約6.4～6.3m 焚き火	第1遺構面(4a層下面)：約6.1m 柱穴
第4遺構面(7a-2層下面)：約6.2m 煙	第2遺構面(7a層上面)：約5.6～5.4m 水田
第5遺構面(8a層上面)：約5.7m 流路	—
第6遺構面(9a層上面)：約5.2～5.0m 水田	第3遺構面(8a層上面)：約4.6m 水田？



- 1a.現表土・複雑土
- 2a.日表土
- 2b.灰色粘土混じり砂
- 3a.灰褐色混じり粘土
- 4a.灰色砂混じり粘土
- 5a.灰色砂質粘土
- 6a.黒褐色砂質粘土 奈良時代平安時代の遺物を含む 下面が第1遺構面
- 6b.褐色砂混じり細砂
- 6c.黄褐色砂質粘土
- 7a.オーバーフロウ粘土 水田耕土 上面で耕作痕認
- 7b.アリーブ堆積物質粘土
- 7c.洪流水成いろいろ
- 8a.黑色砂混じり粘土 水田耕土?上面で突堤土器出土
- 8b.青灰色粘土混じり砂
- 8c.青灰色粘土混じり粗砂

fig.82
調査区断面図



1~9: 4層、10~26: 5層、27~30: 6層、31: 8層

fig.83 出土遺物実測図



fig.84
第2追構面全景

13. 神楽遺跡 第14次調査

1. はじめに

神楽遺跡は、神戸市長田区神楽町に所在する弥生時代～平安時代の遺跡であり、新湊川右岸の沖積地に立地している。これまでに13次にわたる調査を実施してきており、だいにその様相が判明しつつあるが、特徴的な事柄として現長田南小学校（旧神楽小学校）を中心とする地区において韓式系土器と呼ばれる朝鮮半島の影響を受けた土器の出土がみられることがある。韓式系土器が出土した遺構は、掘立柱建物や土坑、溝などであり、渡来人あるいはその影響を受けた人々の生活域を示す遺構から出土している。

調査は、基礎杭部分に限定することとなったため、 2×2 mの調査区を8ヶ所設定して、調査を実施した。



2. 調査の概要

調査区は前述のように8ヶ所に分かれており、南側列の東側より1～4区、北側列の東側より5～8区と呼称する。

基本層序

各調査区は、表土直下に0.8～1.9mの盛土層が堆積し、その下層に旧耕土が存在する。さらに下層の標高4.4～4.5mで灰茶色粘質砂〔3・4区〕あるいは淡灰色極細砂〔6～8区〕のそれぞれ上面を基盤層とする遺構面を確認した。この遺構面については、後述するように古墳時代後期のものと考えられるが、当該時期の段階では、1・2・5区は河道内に位置しているものと考えられ、遺構面は遺存していなかった。ただし、1区ではより上層の標高5.1mのところに遺構面が存在し、ピット1基を検出している。古墳時代よりも新しい時期の遺構面が未調査部分にも残がっていることが考えられる。

検出遺構

井戸

以下、各調査区で検出した遺構・遺物について概略を示す。

6区で井戸1基（S E01）を検出した。調査区が狭く、井戸の全容については不明であるが、長径3m、短径2m程度のやや楕円形を呈するものと推定される。深さについては、



fig.86
S E01

検出面から約1.5mまで掘削したが底面までは至らず、正確な深さは不明である。調査区北東隅の最深部で縦方向に打ち込んでいるものと思われる板材の上部を検出したが、取り上げ不能であったため、詳細な構造等については不明である。埋土中より古墳時代後期の須恵器・土師器・韓式系土器（軟質）が出土している。

ピット ピットは計5基検出した。前述のように1区のS P01のみ上層で検出しているため、他のピットとは時期差が考えられる。S P02以外は全て調査区外に延びるため正確な規模は不明である。深さについては、S P02・04のように10cm程度の浅いものもあるが、S P01・03・05は40～50cmを測り、柱痕が認められるものもあることから、掘立柱建物の柱穴である可能性が高い。

断ち割り 遺構面以下の状況を確認するために、3・4・8区において断ち割りを実施した。その結果、遺構面の直下は厚さ約50cmの淡灰色系の極細砂～細砂が堆積し、さらに下層には黒灰色シルト～粘土が存在する。

いずれの層からも遺物は検出されず、遺構も検出されなかったため、古墳時代遺構面より下層には埋蔵文化財は存在しないものと考えられる。

3. まとめ 今回の調査は新築建物の基礎杭部分に限定して実施したために調査対象地の全容については不明な点が多いが、井戸やピットなど古墳時代後期のものと考えられる遺構を検出し、今回の



fig.87 3区・4区全景